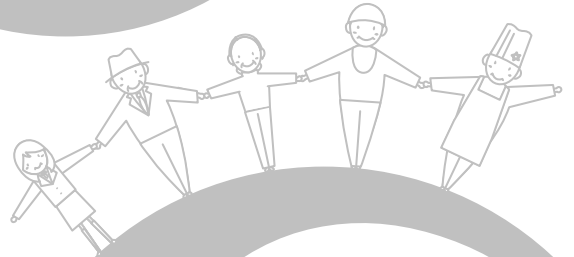


# 第1期麻生区区民会議報告書

～心が響きあう地域づくり～



2008(平成20)年6月  
麻生区区民会議



## 第1期の報告書の刊行によせて

川崎市自治基本条例の制定を受けて、「地域のことは地域で解決」ということで麻生区区民会議が発足してしたのが平成18年7月でした。早いもので2年が経過しようとしています。区民会議は、区民から選出された委員20名が、区民の立場で地域社会の課題解決に向かい審議を進めてまいりました。麻生区という土地柄をふまえて、「どのようなテーマで区民会議を進めていくのか」とのことで検討し、麻生区の特徴を生かしたテーマ設定のために委員と区民の方々から課題のご提案をいただきました。

その結果、「心が響きあう地域づくり」の課題テーマが決定しました。だれもが住みやすく、安心して暮らせるまちであるためには、人と人のコミュニケーションが大切であることから「心が響きあう地域づくり」の課題テーマが生まれました。

中でも人と人をつなぐ始まりには挨拶があることから、「こどもの見守り」～地域のつながりあいさつがはじまり～を1番目の取り組み事例として取り上げました。次世代を担う子どもたちは地域で育ち、地域の宝でもあることから、「こどもの見守り」は区民誰もが参加できる取り組みであると考えました。

2番目の取り組み事例として「農」を取り上げました。麻生区は川崎市の中でも農地面積が一番広い地域であることから、農を切り口にした専門部会「地元農産物を通じての地域のつながりづくり」を立ち上げました。

3番目の取り組み事例として、区民の関心の高い高齢者専門部会「高齢者支援を通じての地域のつながりづくり」を立ち上げました。

麻生区には、さまざまな団体やグループが、地域づくりのために、活発にそして素晴らしい活動をしています。しかし、一つ一つが素晴らしい有意義な活動をしている半面、繋がりや広がりができにくい状況にあり、区民の皆様共通のものになっていないのが現状です。これらの活動の広がりを作るために、区民会議では広報に重点を置き、区民会議ニュース、広報誌、市政たより等で、皆様にそれぞれの地域での活動をご紹介します。少しでも地域づくりに役立つことができればと考え取り組んできました。

日本では古くから、「遠くの親戚より近くの他人」と云われています。災害時でも思わぬ事故に遭遇したときでも、手助けになるのは近くの人であることは、過去の事例からも明白です。子ども、高齢者のような社会的な弱者はことのほかその重要性が考えられます。都会では隣人の顔も判らない、知らないと孤立する傾向があります。これは麻生区でも云われることです。しかし、いざというときには頼りになるのは近くにいる人であることは誰もが認識しています。日常的に地域づくりを行ってこそ生きてきます。

人は社会的な存在であると云われています。社会の中で生き、生かされ、人に助けられ、助けあいながら生活しています。地域は私たちの日常生活を支えてくれる場です。地域を大切にして、住みやすい、楽しいところにするために区民一人一人ができることを実践することが大切であると考えます。

さまざまな課題が日常的に発生しますが、解決に向かって行くことができるのは「心が響きあう地域づくり」があってこそ生まれると思います。区民会議では地域づくりのために少しでもお役に立つことができればと委員の皆で取り組みました。

第1期区民会議に取り組みがきっかけになり、「心が響きあう地域づくり」の輪が広がり麻生区のまちづくりに発展しますことを願っています。

平成20年6月

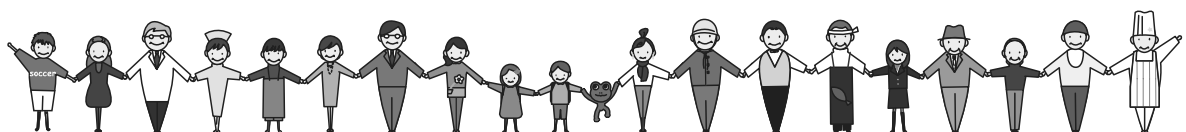
麻生区区民会議委員長 西谷明子

# 目次

第1章 麻生区区民会議のしくみ	1
第2章 第1期麻生区区民会議の取組	6
<b>心が響きあう地域づくり</b>	
事例1 こどもの見守り～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～	10
事例2 地元農産物と地域の交流	14
事例3 高齢者が輝く地域づくり	33
第3章 「区民フォーラム」について	53
第4章 第2期以降の麻生区区民会議に向けて ～第1期区民会議委員の意見・感想等～	58

## 資料編

○第1期麻生区区民会議委員・参与名簿	65
○第1期麻生区区民会議の活動の経過	66
○麻生区区民会議「勉強会」資料	69
○麻生区区民会議における広報等の主な取組	72
○関係規程	100





# 第1章 麻生区区民会議のしくみ

## ① 地域課題の把握・整理

麻生区区民会議では、はじめに委員が日頃の活動等を通じて把握した課題や区民から提案のあった課題、区役所が業務等を通じて把握した課題を抽出・整理をしました。

その後、企画部会の中で、整理した27(その後追加され32)の課題を共通するキーワードにより、①地域(コミュニティ)づくり(19課題)、②市民活動の場づくり(6課題)、③その他(3課題)に分類しました。

## ② 本会議の開催

本会議では、整理された課題の中で、19課題に共通する「地域(コミュニティ)づくり」をテーマに選定するとともに、テーマの名称を「心が響きあう地域づくり」としました。また「心が響きあう地域づくり」の具体的な事例として、「こどもの見守り」を取り上げ、本会議において調査・審議を行いました。本会議は勉強会を含めて全部で10回開催し、調査審議事項の選定、調査審議方法の決定、課題解決策の検討等を行いました。

## ③ 専門部会の設置

区民会議では、課題の整理・調整、議事の事前調整、広報等を担う企画部会を立ち上げました。企画部会は打合せ会を含めて全部で26回開催しました。

また「心が響きあう地域づくり」の具体的な事例として、「地元農産物と地域の交流」や「高齢者が輝く地域づくり」を取り上げ、専門部会を立ち上げ、調査・審議を行いました。

専門部会は、「農」の専門部会が全部で14回、「高齢者」の専門部会が勉強会を含めて全部で14回開催しました。

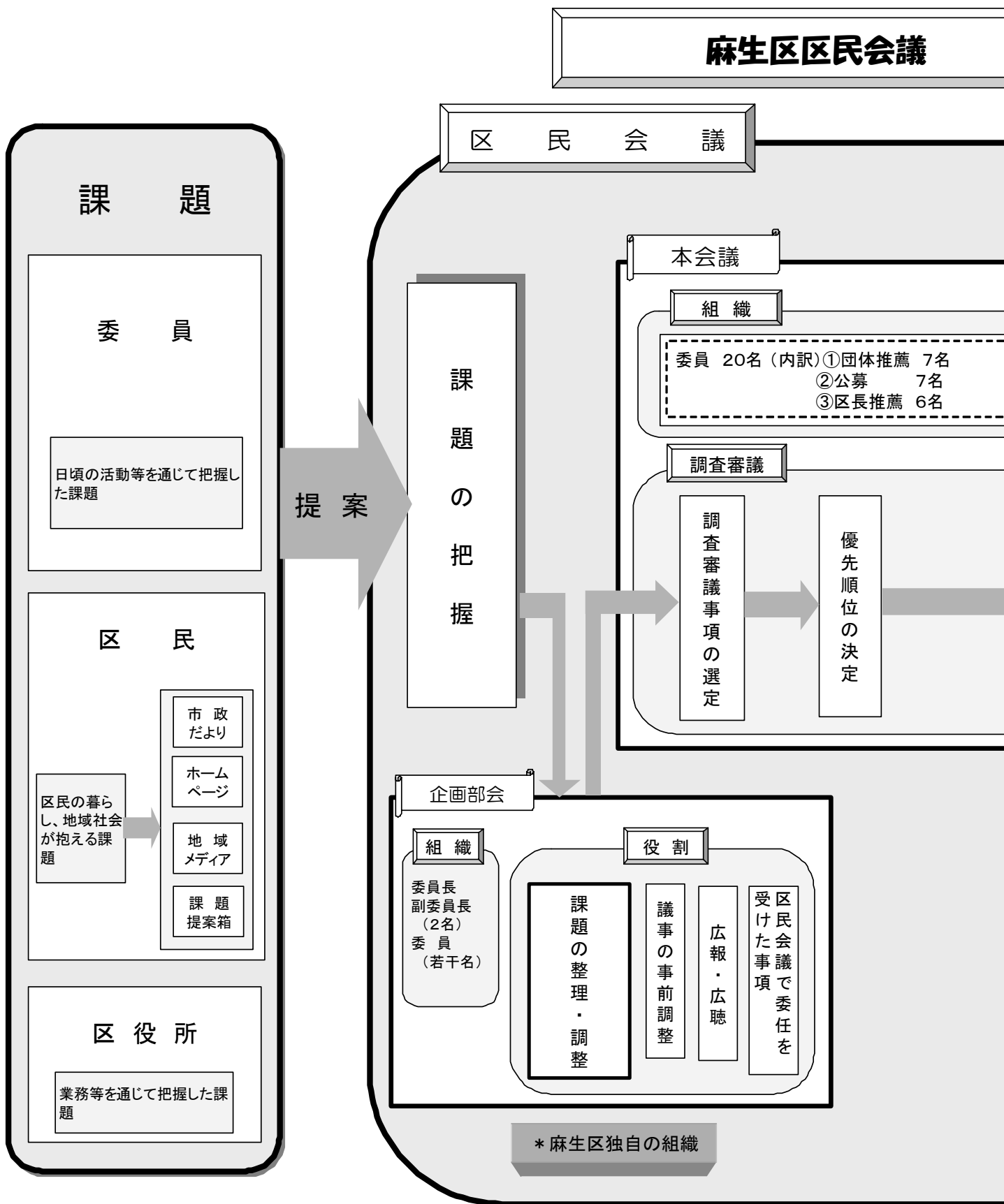
## ④ 区民フォーラムの開催

区民会議の審査結果を区民に報告するとともに、区民会議がめざしている「心が響きあう地域づくり」とは何かを参加者に伝えました。企画の内容は実行委員会で検討を行いました。「区民フォーラム」実行委員会は、全部で11回開催しました。

## ⑤ 広報広聴について

区民会議では、区民の皆様に区民会議を理解していただくために、様々な広報媒体を使い、広報活動を展開しました。市政だよりは全11回、タウン紙は全2回、区民会議ニュースは全10回発行しました。また区役所庁舎壁面に懸垂幕を設置するなど、積極的な広報活動を展開しました。さらに、課題提案箱の設置、区民会議傍聴者アンケート等により広聴活動を行いました。

● 麻生区区民会議 機能イメージ図 ●





# 機能イメージ図

区民の参加と協働による課題解決に向けた調査審議

互選

委員長  
副委員長(2名)

参与  
(必要な助言を  
することができる)

出席

市議会議員  
区議会議員

調査審議方法の決定

課題解決策の検討

調査審議結果の取りまとめ

報告

区長

課題解決に向けた取組

- 区民の自主的な取組による解決
- 区民と区役所が協働で解決
- 市として関係局区の調整により解決
- 国・県など他の行政主体等により解決

課題解決

専門部会

組織

委員(若干名)

互選

部会長

関係者

- ・専門的活動団体
- ・個人(専門家)
- ・その他課題解決に必要な個人・団体

調査検討

課題解決策の検討

調査検討結果の取りまとめ

進行管理・評価

## ● 地域課題の把握・整理 ●

共通のテーマ	課題数	受付No.	課題名	備考
① 地域(コミュニティ)づくり	19	2	迷惑行為の減少	
		4	あさお区民憲章	
		5	地域福祉の担い手である市民活動が生きる仕組みづくり	
		6	高齢者の安全な生活対策	
		8	防災避難訓練の実施	
		9	コミュニティバスの運行	
		11	災害、防災時における障害者への対応	
		12	地域住民同士の連携強化と地域教育力の向上	
		14	地域のつながり「あいさつ」が始まり	
		15	麻生の水に親しみ、水を楽しもう	
		16	地元農産物が結ぶ地域の交流	
		17	女性たちのための子育てと両立できる再チャレンジ支援	
		18	地域に生かす区民の力	
		19	麻生区ガイドボランティアの養成と認定と活用	
		22	麻生区での食育の実施	
		23	市民の交流(区民課題公募分)	②との重複課題
		25	麻生区の地域通貨の発行	
		26	都市住民と農業従事者の共栄	
		27	市民活動団体に「資金」を提供する制度としてのパーセント法の導入	
② 市民活動の場づくり	6	3	協同活動できる場の提供	
		7	文化活動支援	
		13	区民活動への支援強化	
		20	(財)川崎市生涯学習財団分室廃室後の活用	
		21	学校適正規模適正配置検討対象校の統合後の廃校を市民活動拠点として活用	
		23	市民の交流(区民課題公募分)	①との重複課題
③ その他(交通環境に係る提案)	3	1	通勤時間等の交通渋滞の解消	
		10	交差点における右折、左折の増設	
		24	自転車にやさしい道路の整備	
追加分	5	28	芸術作品の展示ギャラリーの設置	
		29	高齢者の多様な居場所と地域づくり	
		30	「高齢者・のんびり・くつろぎ・生きがい広場」の創設(ナイスモデルズプラザ)	
		31	「災害、防災時における障がい者への対応」を軸にした区内の災害時の救援対策の確認及び区内全域における防災に関する取組、障がい者や高齢者への対応への検証	
		32	ご近所の美化清掃を通じて地域の繋がりを	



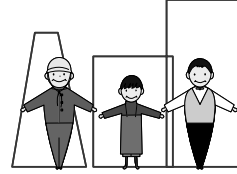


## ● 麻生区区民会議独自の制度・運営の工夫 ●

麻生区では、会議の制度づくり、運営において、独自の工夫を凝らしました。

### ① 公平性への配慮

→委員構成を、団体推薦、公募、区長推薦各1/3に

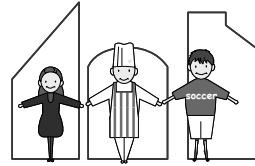


### ② 透明性への配慮

→審議すべき地域課題を、公募と委員全員からの提案を受けた審議により選定

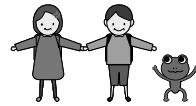
### ③ 実効性への配慮

→企画部会と専門部会を設置



### ④ 区民の主体性、公開性への配慮

→「区民会議ニュース」の発行、タウン紙の活用、HPの充実、傍聴者アンケート、区民提案箱の設置等



### ⑤ 協働性への配慮

→制度づくりの段階から区民参加と、区役所との協働

## ● 麻生区区民会議の独自の取組として、勉強会や「区民フォーラム」を開催しました ●

### ■ 勉強会の開催

第3回区民会議で「区民会議の基本理念について、共通認識を深めるため勉強会を実施する」ことが決まり、企画部会作成案に沿って平成19年3月7日(水)に勉強会を開催しました。

### ■ 「区民フォーラム」の実施

実行委員会が企画して区民会議委員全員が役割を分担して、平成20年2月23日(土)に「区民フォーラム」を実施しました。実行委員会委員は以下の通りです。

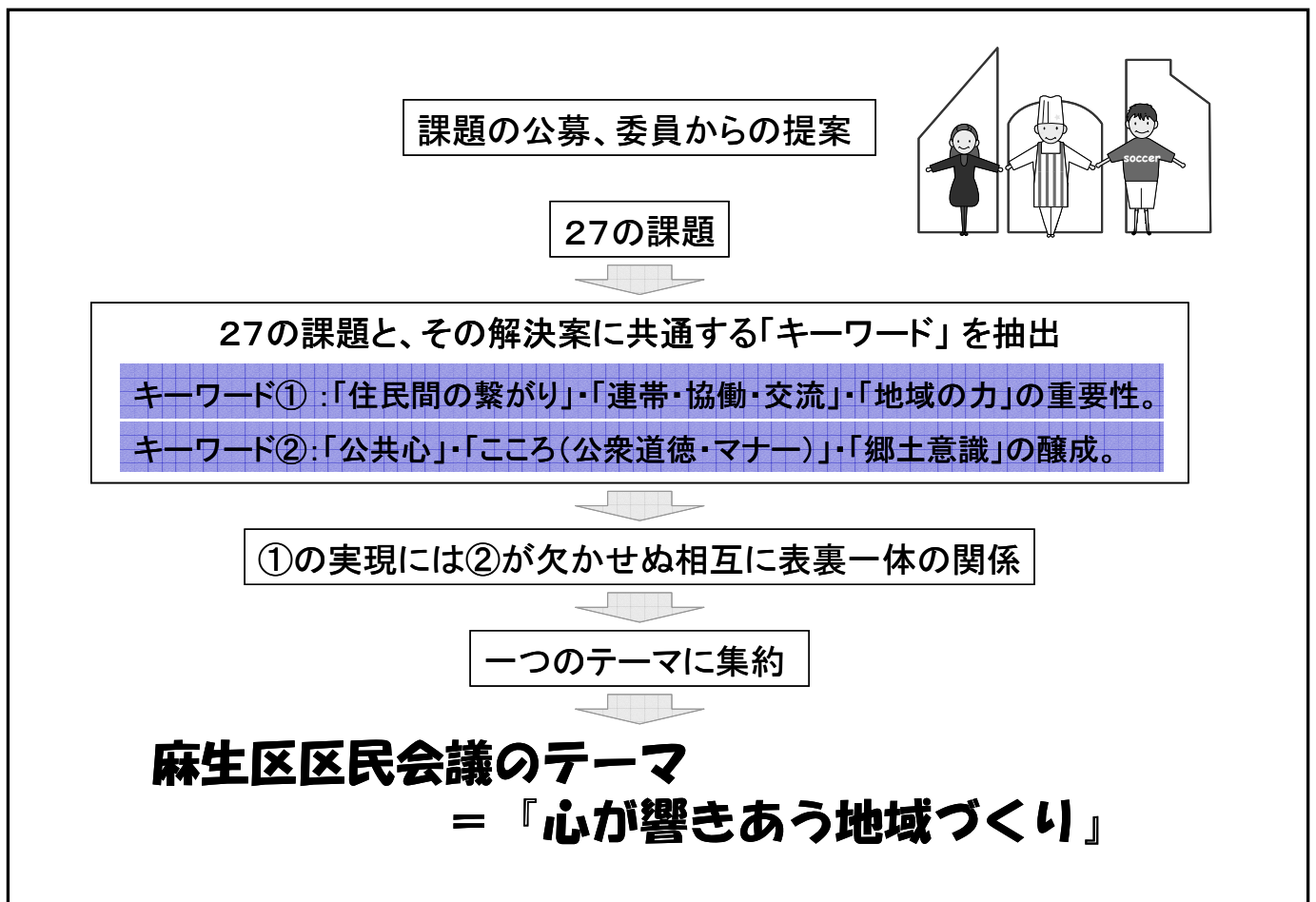
委員長：西谷 / 委員：石田・上野・小川・神本・佐藤・京・守田

## 第2章 第1期麻生区区民会議の取組

### 心が響きあう地域づくり

だれもが住みやすく、安心して暮らせるまちであるためには、人と人のコミュニケーションが大切であることから、事前に募集した27の提案から共通するキーワードを抽出し、「心が響きあう地域づくり」という課題テーマが決まりました。

#### ● 課題（テーマ）の選定 ●





## ●「心が響きあう地域づくり」のための具体的な取組事例・切り口 ●

その具体的な取組・切り口事例として、次の3つを取り上げて、順次推進することにしました。

### 【事例1】登下校時児童の見守り ～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～

→企画部会で取組むことを決定(18年10月)

#### 【企画部会】

部会長：石田 / 副部会長：京 / 委員：上野・神本・佐藤・西谷・守田

### 【事例2】地元農産物を通じての地域のつながりづくり

→専門部会設置(18年12月)

#### 【「農」の専門部会】

部会長：尾中 / 副部会長：高桑 / 委員：石田・神本・平林・松本

### 【事例3】高齢者支援を切り口とした地域のつながりづくり

→専門部会設置(19年6月)

#### 【「高齢者」専門部会】

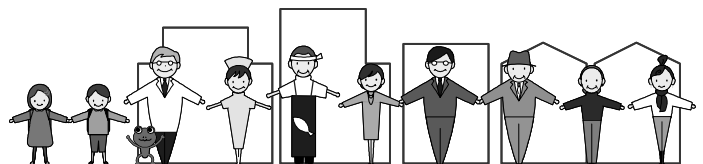
部会長：菅原 / 副部会長：矢野 / 委員：上野・佐藤・谷川・京

## ●課題（テーマ）の周知

区役所としては、区民会議において決定した課題テーマを広く区民に周知するために、懸垂幕を製作して区役所の壁面に設置しました。

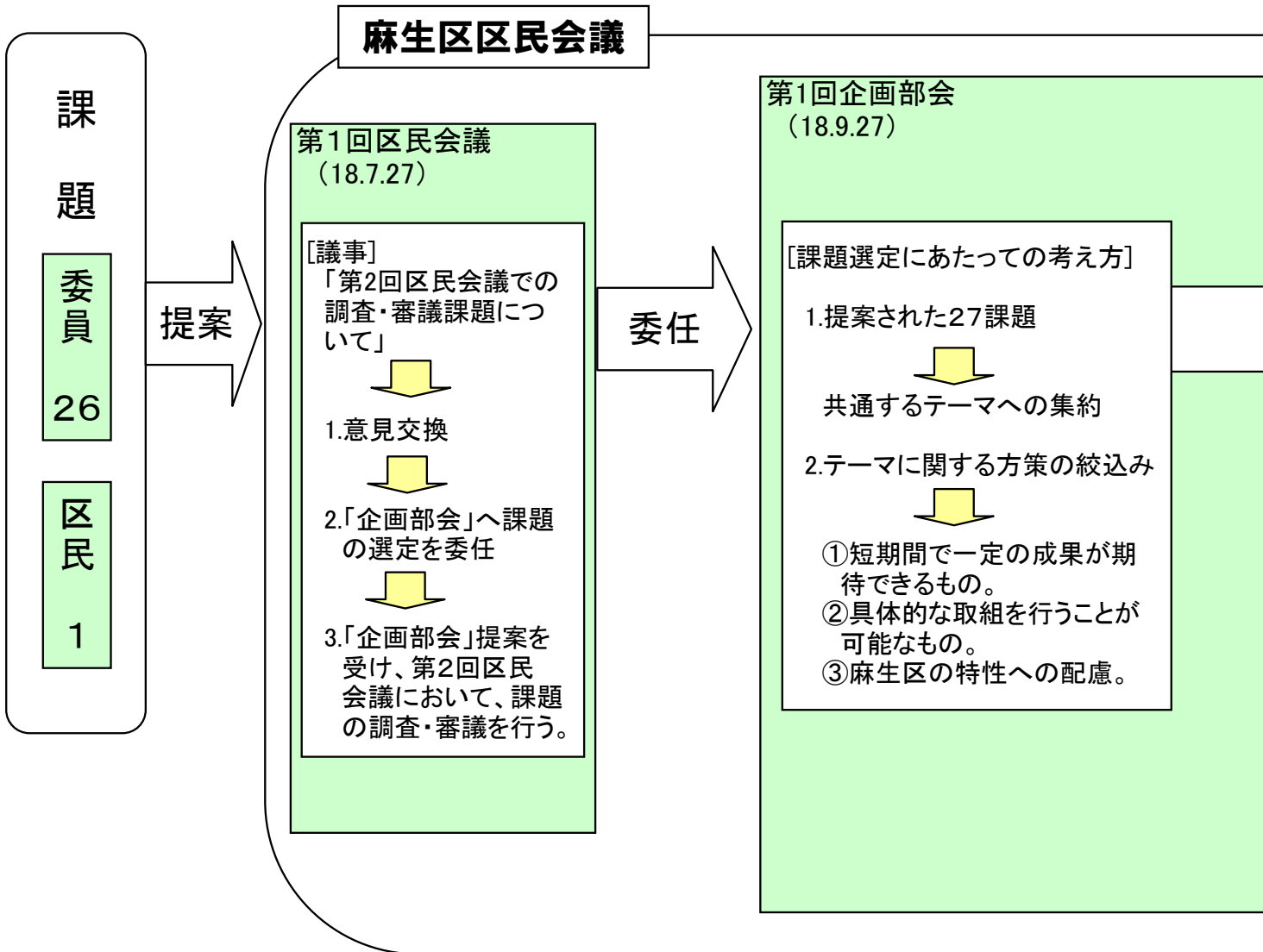
## ●今後の展開

区民会議の課題テーマである「心が響きあう地域づくり」を進めるために、区役所としては、モデル地区を選定して地域コミュニティの実態調査を実施するとともに、あいさつが交し合える地域づくりの手引き書の作成を予定しており、地域におけるコミュニティづくりに取り組んでいきます。



テーマ 「心が響きあう地域づくり」

事例 ① 「こどもの見守り」～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～  
 ② 「地元農産物と地域の交流」  
 ③ 「高齢者が輝く地域づくり」（その後に追加）



調査・審議課題

\*第2回区民会議審議課題

検討

[テーマの選定]

1. 共通のキーワード、方向性による整理

- ①「地域(コミュニティ)づくり」 19課題(②との重複1課題)
- ②「市民活動の場づくり」 6課題(①との重複1課題)
- ③「その他(交通環境に係る提案)」 3課題



- ④19課題に共通する「地域(コミュニティ)づくり」を選定
- ⑤テーマの名称を「心が響きあう地域づくり」とした。

2. テーマに関する方策の選定

- ①[課題選定にあたっての考え方]の2に基づき、次の方策を選定
  - ア「こどもの見守り」
  - イ「地元農産物と地域の交流」



- ③時間的な制約、具体的な取組への可能性等を考慮し、第2回区民会議で審議する事例を「こどもの見守り」とし、副題を「地域のつながり「あいさつ」がはじまり」とした。
- ④「地元農産物と地域の交流」は、調査・審議に一定の期間が必要な課題であり、専門部会への付託を含め、調査・審議方法を検討することとした。

## 事例 1

# こどもの見守り ～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～

人と人をつなぐ始まりは挨拶であることから、最初は、挨拶から初め、子どもの見守りという共通項を設定し、次世代を担う子どもたちが地域に育ち、地域の宝であるという視点で、「子どもの見守り～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～」という課題を本会議で取り上げました。

### (1) 通学路での安全確保について

課題に対する現状の取組として、麻生区内公立小学校16校の通学児童の安全確保等に向けて行っている地域のボランティアやPTAの方々によるパトロールの状況を把握しました。

その中で、特に地域住民のボランティア組織である東柿生小学校区防犯パトロール隊に注目し、関係者のヒアリングを行いました。

### (2) 区民会議における主な取組

課題に対する現状の取組として、麻生区内公立小学校16校の通学児童の安全確保等に向けて行っている地域のボランティアやPTAの方々によるパトロールの状況を把握しました。

#### 関係情報の収集

通学児童の安全確保等に向けて、町内会・自治会、青少年指導員会、各学校のPTA、老人クラブ、子ども会、民生委員児童委員協議会、ボランティア団体などが行っている取組などの情報を収集しました。

#### 情報の共有化

通学児童の安全確保等に向けて、各種団体等が取り組んでいる事例を収集し、情報の共有化を図るため、タウン紙、区民会議ニュース、チラシ、ポスター等を通じて広報を行いました。

#### 町内会・自治会など既存組織との連携

地域での主体的な取組を支援するため、区役所では腕章や地域活動用ベスト、立て看板等を製作しました。腕章は980個、ベストは522着、立て看板は15枚製作し、腕章は60の町会・自治会に配布、ベストは58の町会・自治会に配布するとともに、PTA・防犯関係組織にも配布し、具体的な活動を支援しました。

以上のような取組をまとめると次項の第2回区民会議、第3回区民会議の取組内容となります。



## ● こどもの見守りに関する実践事例及び課題解決に向けての具体的な手法など ●

～第2回区民会議での調査・審議から～

「見守り」実践事例など	ヒント・ノウハウなど	問題点など
<b>1. 東柿生小学校区防犯パトロール隊</b>		
① 小学校区地域（町会を越えて）の自発的・自主的ボランティアで構成された「勝手連」。パトロールの時間、コースなどは自由で腕章着用以外義務づけなし。 ② 日頃から学校の運動会等に招かれており、児童・保護者に紹介されて顔馴染み。 ③ 地域住民と子どもとの「あいさつ」のやりとりは大切。	① 地域住民のボランティア組織。 ② 決まりや義務ではない自由な活動。 ③ 子どもとのあいさつの交換。 ④ 学校との日頃の交流。 ⑤ 子どもの考え・視点（感想・意見）の取り込み。	
<b>2. その他の「見守り」事例</b>		
① 岡上・片平等多くの地域でPTA校外委員を中心にパトロール。町内会がパトロール隊を編成して協力。 ② 西生田小区一部地域では、「東柿生」の事例同様に住民が自主的にわんわんパトロール、下校時見守り隊は広報、経費などで支援。通学ルート沿いの住民有志は下校時玄関前で見守り。	① 大きな組織でなくても小さくて顔馴染みになれるご近所の「見守り隊」を沢山つくる。 ② 小さな波紋が広がり重なるように。 ③ 街角の掃除など身近な機会に子ども連れで参加して絆づくりを。 ④ 転入してきた方には、前から住んでいる人が進んで地域の情報を提供する。 ⑤ 親が通勤時に町内では腕章をつけるなどして、当事者として主体的に行動することができる。 ⑥ 学校側には余裕は少なく、校外問題に過度の依存は疑問。 ⑦ 中原区では町内の中学生を「見守り」に巻き込んだ事例がある。	① 当事者であるはずの保護者間でも「見守り」に温度差。 ② 校外委員への負担。 ③ 地域への親の依頼心。 ④ 町内会など地域と保護者間での意思疎通、ニーズ・アイデアの把握。 ⑤ 学校と地域との連携、役割分担明確化。
<b>3. 副題：“地域のつながり「あいさつ」がはじまり” に関して</b>		
～顔を合わせたら「あいさつ」を交わすことが防犯だけでなく地域づくりの根底となる～	① 家庭では親が率先して「あいさつ」を。親が子どもの見本。 ② 学校では教職員から「あいさつ」の率先、垂範を。 ① 家庭、町内、学校、集まり、どこでも、「あいさつ」は先ず自分から声をかけて。 ② 無視されても繰り返しが重要。 ① 町内では、腕章・ベストをつけていると声が掛けやすく、また相手も返しやすい。 ② 腕章悪用に注意する。防止策として、地域で管理する仕組みをつくる必要がある。	① あいさつを防犯の視点だけでなく、親子の話し合いからはじめて、他人を思いやる心、公共心を育てることに広げたい。（傍聴者意見） ① 「あいさつ」をしないのは、子ども・若者ばかりではない。

～第3回区民会議での提案内容から～

取組方法	具体的な取組内容	取組事例
1. 広報の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 市政だより、区民会議ニュース、区ホームページ、各団体機関紙、地域メディア、マスメディアなど各種媒体を活用する。</li> <li>② 各地域における実践事例などを収集・広報して、区全域での情報共有化を図る。</li> <li>③ 事例、問題点、ヒントなどを取り組みやすいように具体的に楽しく、わかりやすく広報する。（文章だけではなくイラストなども使う）</li> <li>④ 区民会議ニュースで特集を組むなど集中的、かつ継続的な広報が必要。</li> <li>⑤ 区民の関心を高めるための手段として、ポスター作成、標語募集などがある。</li> <li>⑥ 区民会議の課題を周知するため、懸垂幕を掲げる。</li> <li>⑦ 外国人への広報を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 区民会議ニュース臨時特集号の発行</li> <li>② 地域メディア（タウン誌等）を活用（紙面買取等）した広報</li> <li>③ 懸垂幕の製作</li> </ul>
2. 町内会・自治会など既存組織との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各地域では当事者たる保護者が取り組みの主体であることを認識し、そのきっかけや環境作りに配慮する。</li> <li>② 保護者、子どものニーズや解決のアイデア、自主的行動を大事にする。</li> <li>③ 町内会など地域組織・関係既存組織と保護者との意思疎通を図り、先進的な事例や取り組みのノウハウなどを参考にしつつ、地域の実態・ニーズに合った方法を検討する。</li> <li>④ 行政・学校は、地域の実態・ニーズを把握して支援・協働する。</li> <li>⑤ 元気なシニア世代（団塊の世代など）の活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 腕章、ベスト、立て看板等の製作</li> <li>② 各地域で必要とする経費見積書を徴取したらどうか。</li> <li>③ 区ではその経費を予備費として計上はできないか。</li> </ul>

～区民発意による課題解決に向けた区役所の取組について～

（平成19年3月現在）

<p><b>1. 平成18年度における取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 区民会議の提案のうち、実現可能なものを「平成18年度協働推進事業費」を使用し実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①事業名－「心が響きあう地域づくり事業」</li> <li>②予算額－2,280,000円</li> </ul> </li> <li>(2) 事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>①タウン誌（マイタウン21）を活用した地域の活動事例の紹介記事の掲載（3月1日号、4月1日号）</li> <li>②懸垂幕の製作</li> <li>③区民会議ニュース、チラシ、ポスター作成等に必要な物品の購入</li> <li>④課題提案箱の作製</li> <li>⑤地域活動用ベスト、腕章の購入</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>2. 今後の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 区民の関心を高めるための広報の継続</li> <li>(2) 既存組織との連携に向けた仕組みづくり</li> <li>(3) シニア世代の地域社会への参加に係る仕組みづくりの検討</li> <li>(4) 区民ニーズに即した支援のあり方、予算のあり方の検討</li> </ul>
<p><b>3. 今後の展開（予定）</b></p> <p>地域における安心・安全のまちづくりを進めるために、引き続き関係機関との調整を行うとともに、行政としても必要な支援を行っていく予定</p>





### (3) 区民会議の提案による取組事例の紹介

#### 区民会議ニュース

**麻生区区民会議**  
**ニュース** 2006.11 No.2

〒158-8501 麻生区麻生  
 麻生区民会議  
 〒158-8501 麻生区麻生  
 電話：965-5112 Fax：965-5200  
 E-mail：thousandyouth@town.kawasaki.jp

**第2回麻生区区民会議**

「心が響きあう地域づくり」

第2回麻生区区民会議は、平成18年10月13日(金)15時から区役所第1会議室で開催されました。(傍聴者17名)

会議では、企画部会(委員7名)で事前調整等を行い、提案された「麻生区民防パトロール推進委員会」、「区の懇話の開催・普及」や「広報・広報活動」について審議しました。

なお、副題の提案・審議に当たっては、企画部会の提案説明に続いて、麻生区役所子ども総合支援担当新谷主幹から平成18年9月現在の小学校区別パトロール状況の報告と、**麻生区民防パトロール推進委員会**の三原さんと副田議員さんから内容豊富なパトロール推進の事例紹介(詳細は別紙)があり、その後、活発な審議を行いました。

□ 区民会議の議題選定  
**区民会議のテーマは**  
**「心が響きあう地域づくり」**

8月末までに区民会議委員及び区民の方から提案された「地域改善が他える課題」37件について、企画部会が共通の方向性を求めて選んだテーマは「心が響きあう地域づくり」です。さらに、このテーマを具体化する出来の事例として次の2件を取り上げることとしました。これらの活動を通して住みやすい「地域づくり」に繋げてゆきたいものです。

**事例1** 「子どもの見守り」  
 ～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～  
 「緊急性があり、誰もが参加し易いもの」として選びました。審議の中で、「町内会の活性化」、「広域の単発性」、「情報交換の場の設定」、「子供への交通安全のアピール」、「地域の方の見守り活動」に陥らず、保護者自らが参加して活動に参加する、「このテーマで特集を組んだ広報を行う」等多数の提案がありました。企画部会で、地域づくりへ繋げるきっかけ作りや府中を統括する方法等を詰めて取りまとめ、第3回区民会議で確認し、できるところから実施することになりました。

武喜に続く→

#### マイタウン21

麻生区民防パトロール推進委員会  
**心が響きあう地域づくり**  
 麻生区区民会議

地域づくりを推進し、  
 安全なまちを  
 およびボイス  
 公園花の会  
 公園花の会  
 公園花の会  
 公園花の会

「心が響きあう地域づくり」の取組事例が紹介されています。写真やイラストが豊富に掲載されています。

#### 懸垂幕



#### 地域活動用ベスト・腕章



## (1) 「農」を通じての地域づくりについて

区民会議のテーマである「心が響きあう地域づくり」の具体的な事例として、麻生区の地域特性である「農」に着目し、どのように「地域づくり」につなげていくかという視点で専門部会を設置し、①食育、②直売所を通じての交流、③市民農園を通じての交流という3つの柱で調査・審議を行いました。

まず、課題に対する行政・区民等の取組を把握するとともに、区内の各小学校における農業体験・食育に関する取組についてアンケート調査を実施しました。

## (2) 区民会議における主な取組

### 関係情報の収集

かわさき「農」の新生プラン、市民農園、農（みのり）の寺子屋など行政の取組やJAふれあい農園、体験型農園（農地所有者）など現状の取組を把握しました。

### アンケート実施

区内の各小学校あてに、食育等の取組状況、学校農園の状況、地域との連携・交流、農業体験・食育を推進する上での課題及び今後の展開について、アンケートを実施しました。アンケート結果から、すべての学校において食育に関して何らかの活動を行っていることが分かりました。また地域との連携・交流では各学校とも工夫を凝らしており、地域の人材の情報がほしい等の意見がありました。今後、地域づくりに関連した取組が期待できる学校ということで王禅寺小学校を選定し、モデル実施をすることになりました。

### 関係者ヒアリングの実施

区の協働推進事業である「体験農業 親子で米づくり」について、関係者のヒアリングを実施した。また「次世代・地域住民との交流事業」（JA）について、関係者のヒアリングを実施しました。

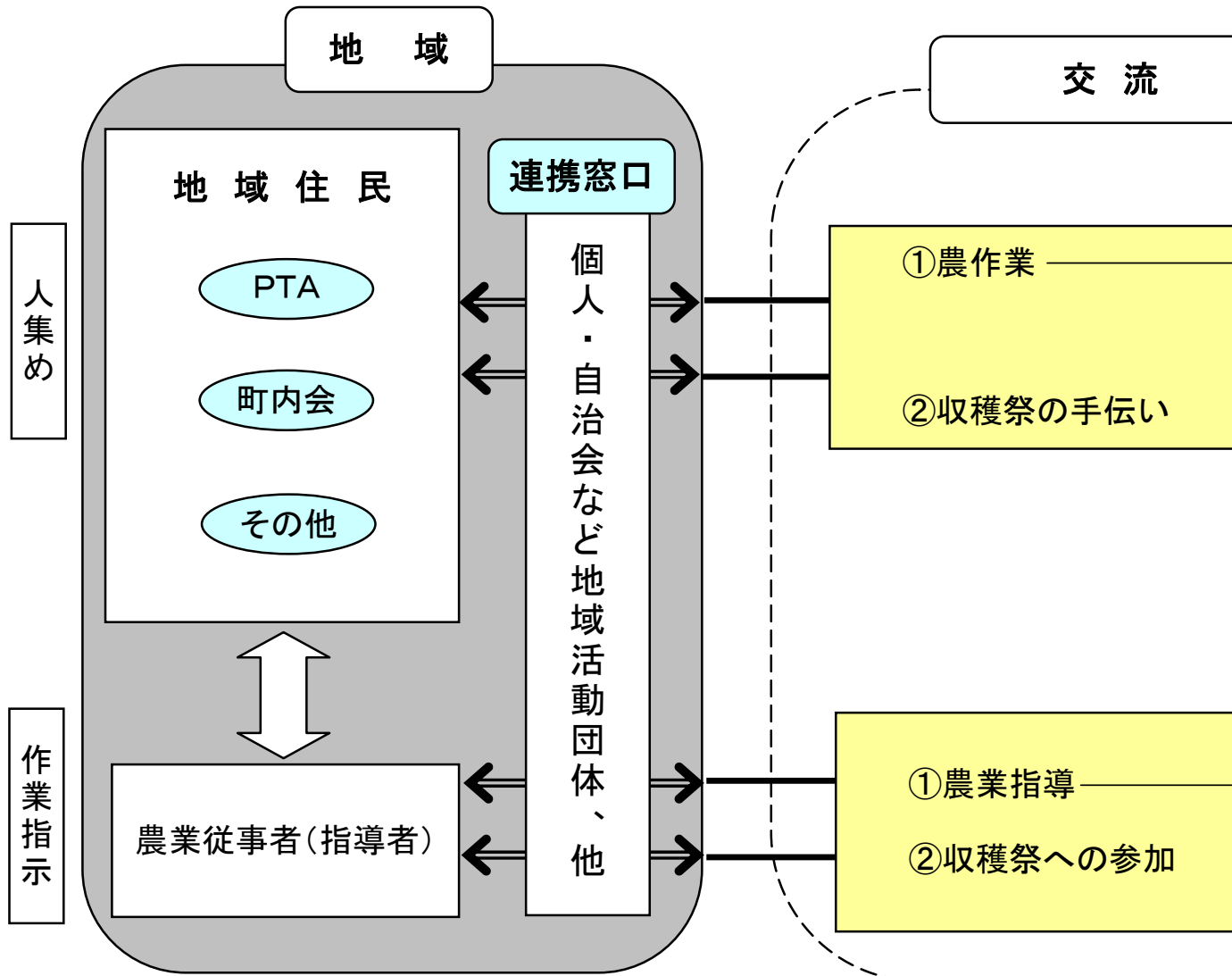


### (3) 第1期区民会議の取組内容及び今後の展開

課題	第1期区民会議の取組内容	今後の展開(予定)
<b>食育を通じての地域交流</b>	区内の各小学校にアンケート実施 体験農業の関係者ヒアリング J A関係者ヒアリング 王禅寺小学校をモデル校に選定	アンケートの結果を各小学校に送付 王禅寺小学校で学校農園を通じた地域づくりをモデル実施予定
<b>農産物直売所を通じての地域交流</b>	体験農業の関係者ヒアリング J A関係者ヒアリング	「セレサモス」を核として、地産地消や農とのふれあいを促進する仕組づくり(農業従事者と区民との交流等)をJ A等に依頼予定
<b>市民農園及び援農を通じての交流</b>	体験農業の関係者ヒアリング J A関係者ヒアリング	市民農園や援農への取組を拡充し、市民が農に親しみ、農業従事者と交流を図るために、行政やJ Aに農業従事者に対する意向調査の実施を依頼予定

● 農業体験、食育を通じての交流イメージ ●

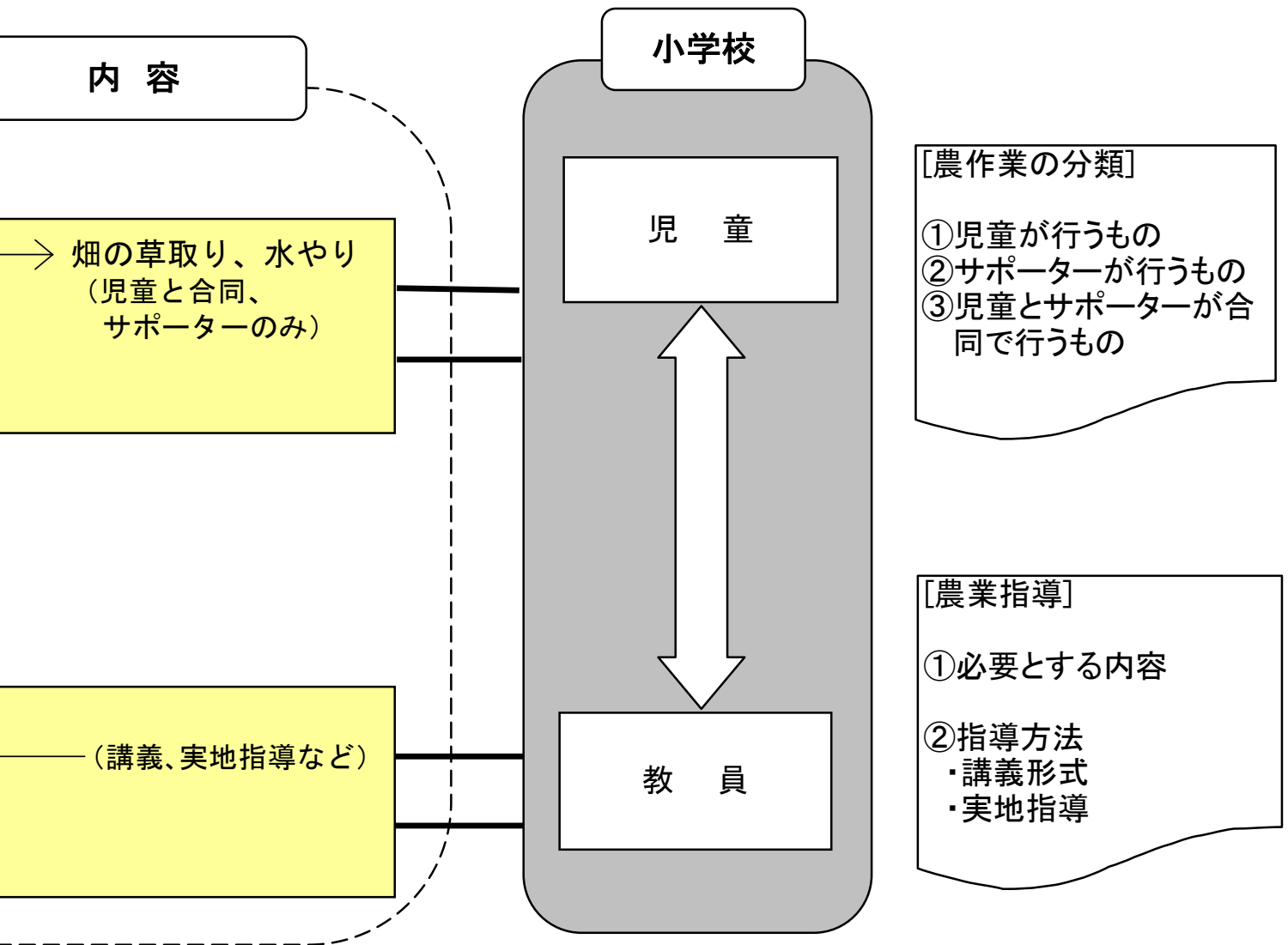
目的＝地域のつながりをつくる



- リーダー(学校と地域の連携窓口)の選任方法
  - ・地域毎に最適なリーダーを、学校と地域の活動団体とで調整し、選任
- 企画の周知、人集め
  - ・ポスター
  - ・回覧板
  - ・口伝え など

区民会議

行政



## 区の課題

### 1. 区の課題

#### 標題

『心が響きあう地域づくり』  
事例～地元農産物と地域の交流

#### 課題の内容

～麻生区の特長である「農」を通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

【課題の絞込み】～19. 1. 16～

- ①食育を通じての交流
- ②直売所を通じての交流
- ③市民農園及び援農を通じての交流

### 2. 課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

#### ①行政の取り組み

ア かわさき「農」の新生プランに基づく施策の推進

イ 体験農業 親子で米づくり（区協働推進事業）

↓ ～19.2.14～

【関係者(実行委員長)から意見聴取】

ウ 学校における農業体験、食育に関する取組

↓ ～19.3.7～

【小学校あてアンケートの送付】

#### ②区民等の取り組み

ア 次世代・地域住民との交流事業(JA)

↓ ～19.2.14～

【関係者(JAむかしの川崎)から意見聴取】

イ 直売所を通じた農産物の販売

### 3. 課題の解決策のアイデア

- ①集会場等で、農家の方から、区民が、料理（梅干、豚汁、たんあん、など）を教えてもらう。  
家庭菜園のための知識・ノウハウを教えてもらう。  
→教えてもらった人が、さらに初めての人に教える仕組みづくり（農のサポーター）
- ②行政などが、野菜や花卉の苗・球根を配布し、区民は、その育て方などを教えてもらう。  
（柿の木の事例あり、3年で100本の苗配布一課題・資金）
- ③畑で、農家から、区民が、いちご等の生産物を、一定単位（畝など）で購入できる仕組みづくり
- ④市等の広報誌に、児童などが地元の農家にヒアリングし、記事を作成・掲載
- ⑤区民の生ごみの堆肥化を促進し、その堆肥を地元農家に利用してもらう。

#### 【学校関連】

- ⑥「給食だより」に、農家あるいは児童が、地元農家や農産物の紹介等の記事を作成・掲載
- ⑦学校の花壇に、球根や農家で売れ残った花などを植えに行く。
- ⑧学校の花壇を畑に転用
- ⑨アンケート結果の取りまとめ、情報の提供



#### 4. 課題解決策の具体化に向けた検討

##### ①短期的対応策

ア 小学校におけるアンケート結果の取りまとめ・情報の提供(各小学校、教育委員会、関係機関等)

イ 食育を通じての地域の交流(モデル校)  
・農業指導者の派遣  
・学校農園サポーターの募集・派遣

ウ 食育推進会議との連携

■達成期間  
平成20年度～

##### ■主な担い手と役割

○区民  
・農業従事者、経験者の派遣  
・農の市民サポーター

○区  
・農業従事者、サポーター等の募集・紹介  
・取組事例の広報

○市  
・教育委員会、経済局、健康福祉局等による事業の推進

■関係部局  
・教育委員会  
・経済局  
・健康福祉局

##### ■予算見込額の検討

##### ■予算確保の手法

##### ②中・長期的対応策

ア 食育を通じての地域の交流(各小学校)

イ 食育推進会議との連携

■達成期間

##### ■主な担い手と役割

○区民  
・農業従事者、経験者の派遣  
・農の市民サポーター

○区  
・農業従事者、サポーター等の募集・紹介  
・取組事例の広報

○市  
・教育委員会、経済局、健康福祉局等による事業の推進

■関係部局  
・教育委員会  
・経済局  
・健康福祉局

##### ■予算見込額の検討

##### ■予算確保の手法

#### 5. 課題解決により期待される効果、成果

ア 食育を通じた地域との交流

イ 地産地消の推進

#### 6. 総合計画上の位置付け

ア 人を育て心を育むまちづくり

イ 環境を守り自然と調和したまちづくり

ウ 個性と魅力が輝くまちづくり

エ 参加と協働による市民自治のまちづくり

#### 7. 課題解決に向けた取組

ア 関係機関等へのアンケート結果の情報提供

イ 農業従事者、経験者、学校農園サポーターの募集や支援を希望する小学校への派遣

#### 8. 課題解決への取組の評価、進行管理

①評価

②進行管理

## 区の課題

### 1. 区の課題

#### 標題

『心が響きあう地域づくり』  
事例～地元農産物と地域の交流

#### 課題の内容

～麻生区の特長である「農」を通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

〔課題の絞込み〕～19. 1. 16～

- ①食育を通じての交流
- ②直売所を通じての交流
- ③市民農園及び援農を通じての交流

### 3. 課題の解決策のアイデア

①大型農産物直売所「セレスモス」（20年4月26日オープン、麻生区黒川地区）を核とした交流

#### 【情報コーナーを活用した区民との交流の推進】

- ・農家が区民に野菜の調理法を教える。
- ・農家が区民に花や野菜などの栽培方法についての相談・指導を行う。
- ・農産物の収穫期に合わせたイベントを行う。
- ・地元の農産物（禅寺丸柿、万福寺にんじんなど）を展示・販売する。

②身近な直売所のマップづくり

- ・生産者と区民との身近な交流につなげる。
- ・地産地消の取組の促進

### 2. 課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

#### ①行政の取り組み

ア かわさき「農」の新生プランに基づく施策の推進

- ・花と緑の市民フェア
- ・品評会、園芸博覧会
- ・畜産まつり など

#### ②区民等の取り組み

ア 次世代・地域住民との交流事業(JA)

イ 農業まつり、園芸まつり(JA)

ウ 「セレスモス」のオープン(JA)

エ 直売所を通じた農産物の販売 など





#### 4. 課題解決策の具体化に向けた検討

##### ①短期的対応策

ア「セレスアモス」を核として、地産地消や「農」とのふれあいを促進する仕組みづくりをJA等に依頼する。

##### ■主な担い手と役割

○区民  
・地産地消の推進  
・生産者-農産物のセレスアモスへの出荷

○区  
・取組事例の広報

○市  
・農業公園づくり事業の推進

■関係部局、機関  
・経済局  
・JAセレスアモス

■予算見込額の検討

■予算確保の手法

■達成期間  
平成20年4月～

##### ②中・長期的対応策

ア「身近な直売所のマップづくり」については、「セレスアモス」の運営状況をみながら検討する。

##### ■主な担い手と役割

○区民

○区

○市

■関係部局  
・経済局  
・JAセレスアモス

■予算見込額の検討

■予算確保の手法

■達成期間

#### 5. 課題解決により期待される効果、成果

ア「農」を通じた農業従事者と区民、区民同士による交流の促進

イ 地産地消の推進

#### 6. 総合計画上の位置付け

ア 環境を守り自然と調和したまちづくり

イ 個性と魅力がかがやくまちづくり

ウ 参加と協働による市民自治のまちづくり

#### 7. 課題解決に向けた取組

ア 貴重な地域資源である「セレスアモス」を核として、地産地消や「農」とのふれあいを促進する仕組みづくり(農業従事者と区民との交流等)をJA等に依頼する。

#### 8. 課題解決への取組の評価、進行管理

①評価

②進行管理

## 区の課題

### 1. 区の課題

#### 標題

『心が響きあう地域づくり』  
事例～地元農産物と地域の交流

#### 課題の内容

～麻生区の特徴である「農」を通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

〔課題の絞込み〕 ～19. 1. 16～

- ①食育を通じての交流
- ②直売所を通じての交流
- ③市民農園及び援農を通じての交流

### 3. 課題の解決策のアイデア

- ①農家に対する意向調査の実施を行政やJAに依頼する。
  - ・市民農園を拡充することはできないか。
  - ・農作業を区民が手伝うことはできないか。
- ②次世代育成、農地の適正利用、区民が「農」に親しむための施策への支援
  - ・地元農産物の購入
  - ・農業イベント、農業体験への参加
  - ・都市農地が持つ社会的・公益的価値の理解・評価
  - ・里地・里山の保全への取組

### 2. 課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

#### ①行政の取り組み

ア かわさき「農」の新生プランに基づく施策の推進

- ・市民農園
- ・市民農園リーダー養成
- ・農（みのり）の寺子屋 など

#### ②区民等の取り組み

ア JAふれあい農園

イ 体験型農園（農地所有者） など

- ・相続など法的問題
- ・農家の意向
- など様々な制約がある



#### 4. 課題解決策の具体化に向けた検討

##### ①短期的対応策

ア 農業従事者に対する意向調査の実施を行政やJAに依頼する。

■主な担い手と役割  
○区民

○区

○市  
・農家への意向調査実施に向けた検討

■予算見込額の検討

■予算確保の手法

■達成期間  
平成20年度～

■関係部局、機関  
・経済局  
・JAせしサ川崎

##### ②中・長期的対応策

ア 次世代育成策の推進

イ 農地の適正利用策の推進

ウ 区民が「農」に親しむための施策の検討

■主な担い手と役割  
○区民

○区

○市

■予算見込額の検討

■予算確保の手法

■達成期間

■関係部局  
・経済局  
・JAせしサ川崎

#### 5. 課題解決により期待される効果、成果

ア 農業従事者の意向を把握することで、市民が「農」に親しむための施策につなげることができる。

#### 7. 課題解決に向けた取組

ア 市民農園や援農への取組みを拡充し、市民が「農」に親しみ、農業従事者と交流を図るためには、農業従事者の意向を知ることが重要

↓  
行政やJAに農業従事者に対する意向調査の実施を依頼する。

#### 6. 総合計画上の位置付け

ア 環境を守り自然と調和したまちづくり

イ 個性と魅力がかがやくまちづくり

ウ 参加と協働による市民自治のまちづくり

#### 8. 課題解決への取組の評価、進行管理

①評価

②進行管理

## ● 小学校における農業体験、食育等に関するアンケート〈集計表〉 ●

区 分		王 禅 寺	岡 上
1. 現在の取組	①教育カリキュラム、 課外授業など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～6年－農園で勤労生産的奉仕の活動としてサツマイモを植えて収穫している。</li> <li>・園芸委員会－トマトやナスなどの苗を購入し、育てたり、大根をタネから育てたりして収穫している。</li> <li>・1、2年－生活科の学習として、トマト、ナス、オクラなどを育て収穫している。</li> <li>・5年－総合的な学習として、イネを田植えから稲刈り、脱穀と体験し、最後にごはんを炊いて味わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～6年 年間を通して畑で野菜栽培をしている</li> <li>・18年度実績・・・じゅがいも、人参、大根、ほうれんそう、小松菜、かぶ、きゅうり、インゲン、カボチャ、なす、トマト、ミニトマト、茎イモ、にがうりなど。また、全校での取組としてサツマイモとブロッコリーの栽培</li> <li>・5年 田んぼを使ってもち米づくり、バケツ稲でうるち米づくり</li> <li>・6年 丸山でたけのこ掘り</li> <li>・4～6年 しいたけの栽培</li> </ul>
	②給 食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士が給食だよりの中で、給食に使われている野菜について紹介し、啓蒙している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸山のとけのこを使ったたけのこご飯</li> <li>・サツマイモを使ったサツマイモご飯</li> <li>・ほうれん草を使った味噌汁</li> <li>・ブロッコリーを使ったシチュー</li> <li>・もち米を使った赤飯とたけのこご飯</li> </ul>
	③それ以外	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校花壇での栽培活動(ヘチマ、大葉など)</li> <li>・丸山に植生している茶の木の学習を発展させて、お茶を飲む活動</li> </ul>
2. 学校農園の 状 況	①学校農園の有無	有 (50㎡)	無
	②校外農園の有無	有 (140㎡、170m、徒歩7分)	有 (300㎡、10m) 地域の方から借用
	③校内の農産物	イネ、トマト、ナス、インゲン、ダイコン、ピーマン、オクラ、カボチャ	—
	④校外の農産物	サツマイモ	さつまいも、じゃがいも、ブロッコリー、大根、ほうれん草、とうもろこし、にがうり、クキイモ、小松菜、かぶ、にんじん、いんげん、なす、かぼちゃ、きゅうり、トマト、ミニトマト、しそ
3. 地域との 連 携・交 流	①地域(地元農業従事者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の米づくりの体験学習では、地元の農家の方に支援してもらっている。</li> <li>・苗、鳥の害を防ぐネット、脱穀、スーブでのご飯炊きなど、長時間に渡ってお世話いただき、児童とその都度、交流が図られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑を貸して下さっている方による道徳の授業(3年)</li> <li>・野菜栽培のアドバイス(6年)</li> <li>・キュウリの苗をいただいで指導(4年)</li> <li>・田んぼでの田おこし、あぜぬり、田植え、消毒、稲刈り、はさがけ、脱穀などの援助及び指導(5年)</li> </ul>
	②家 庭	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植え、稲刈りでの協力依頼(5年)</li> </ul>
	③その他地域住民	特になし	特になし
4. 「農業体験」、「食育活動」 の今後について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃食べているお米や野菜がどのような物で、どのように成長し、どんな世話が必要なのかを子どものうちから体験しておくことはとても大切なことである。従って、学校と地域の人たちを農業を通して結びつけてくれる広報的な役割を区民会議に期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恵まれた地域素材を今後も子どもたちの学習活動の中に位置づけて取り組んでいきたい。また、こうした取組を多くの方々に情報発信していきたい。</li> </ul>
5. 「農業体験」、「食育活動」を 推進する上での課題・問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕したり、世話をする時間の確保</li> <li>・夏休み中の米や野菜の世話</li> <li>・安いタネや苗などの入手</li> <li>・野菜づくり、米づくりについての指導を受けてみたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方や有識者の方から年間を通して指導や支援をいただいているが、畑や山・田んぼの管理は当然学校の職員と児童で行わなければならない。時間や人手が足りないという根本的な問題と、教師の方で準備(活動をするに当たっての基礎知識の不足や学習計画を作る上で)面での問題がある。</li> </ul>
6. 要望・意見	①行政に対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で農業をしている人の紹介(氏名、場所、育てている作物など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方には現状で十分な支援や援助をいただいている。ただ、こうした体験を伴うダイナミックな活動にはたくさんの方の活動時間(草とりなどの日常的な活動)が必要になってくる。地域の方との良好な関係を維持して子ども達の学習活動に生かしていけるよう、多くの方に、取組に対する理解を図ってほしい。</li> </ul>
	②地元農業従事者に対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安いタネや苗を提供してほしい</li> <li>・野菜や米づくりの体験への呼びかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地を貸して下さる方をはじめとても親切に対応していただいている。このような力がないと「農業体験」や「食育活動」は成り立たない。</li> </ul>
	③家庭や地域住民に対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プランターや麻・ビニール袋でも育てられる野菜があるので、家庭において子どもと一緒に育ててもらいたい体験となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者も非常に協力的である。</li> </ul>



(1/4)

金 程	真福寺	区 分	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生 総合的な学習「稲を育てよう」</li> <li>・校内に田んぼを作り田植えから収穫、脱穀まで行い収穫したもので、お米パーティーやなわなひを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食育に関して(栄養職員が授業に関わったもの) <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生 「いろいろたべよう」</li> <li>・2年生 「いろいろたべようパートII」</li> <li>・4年生 「すくすく育てわたしの体」</li> </ul> </li> <li>○農業教育に関して <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年 生活科 野菜・サツマイモの栽培、収穫、調理</li> <li>・4年 総合 サツマイモを育てよう</li> <li>・5年 総合 おいしい真福寺米を作ろう</li> </ul> </li> </ul>	①教育カリキュラム、課外授業など	1. 現在の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校栄養職員(巡回)による1年生児童への食物と健康についての話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校敷地内で収穫された筍と栗を自校献立で使用した。</li> </ul>	②給食	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい農園」、校外にある農園(畑)を各家庭に開放し、家族で農作物を栽培しているNPO環境教育フォーラムの方に講師として指導してもらっている。</li> </ul>	特になし	③それ以外	
有(25㎡)	有(200㎡)	①学校農園の有無	2. 学校農園の状況
有(210㎡、400m、徒歩10分)	無	②校外農園の有無	
米	ピーナッツ、ヘチマ、さつまいも、瓢箪、えだ豆、カボチャ、トウモロコシキャベツ、ミニトマト、ジャガイモ、ナス、カブ、キュウリ、菜の花、小松菜、ジュース用トマト、ブロッコリー、春菊	③校内の農産物	
トマト、ジャガイモ、サツマイモ、ナス、キュウリ、スイカ、カボチャ、ニンジン、カブ、ネギ	—	④校外の農産物	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生～総合的な学習「稲を育てよう」</li> <li>・講師として田植えの仕方や脱穀等の実技指導してもらっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生～総合的な学習「おいしい真福寺米を作ろう」で、学区内の井上さんの田んぼをお借りして稲作に取り組んでいる。</li> </ul>	①地域(地元農業従事者)	3. 地域との連携・交流
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい農園」学校で希望する家庭へ農園を開放して活動している。平成18年度実績～18件</li> </ul>	特になし	②家庭	
特になし	特になし	③その他地域住民	
特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作の農業体験は、「田植え」と「稲刈り」の体験のみである。稲作に関わる体験(雑草取りや脱穀など、児童が関われそうな体験)を増やしていきたいと考えている。そうすることで、より現実的な農業体験となるのではないかと考える。</li> </ul>	4. 「農業体験」、「食育活動」の今後について	6. 要望・意見
特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では特に問題となっていることはない。</li> </ul>	5. 「農業体験」、「食育活動」を推進する上での課題・問題	
特になし	特になし	①行政に対して	6. 要望・意見
特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変ご協力をいただき、有り難く思っている。今後も継続を図っていくとともに、児童との関わりを深めていきたい。</li> </ul>	②地元農業従事者に対して	
特になし	特になし	③家庭や地域住民に対して	

区 分		千代ヶ丘	東柿生
1. 現在の取組	①教育カリキュラム、 課外授業など	・学習指導要領に基づいて、各教科、総合的な学習の時間のカリキュラムに栽培活動、体験活動として位置づけている。	・小学校では農業教育という概念はないので、農業に関する学習ととらえて回答します。また、食育の範囲はとて広いので栄養指導の範囲で回答します。 〈農業に関わる学習〉 ・2年 生活科 夏野菜の栽培 ・3年 社会科 地域の土地利用を調べる学習の中で多くの農地があることと農地で働く人の工夫や苦労について学習している。 ・5年 社会科 稲作農家、畑作農家。都市近郊農家などについて総合的な学習。今年度は、稲作体験を行った。 〈食育〉 ・5年 家庭科 野菜の調理、おやつづくり ・6年 家庭科 一食の献立、会食会等を通して栄養指導と楽しい給食 ・1～6年 学活・保健体育 体を強くする食べ物 他
	②給食	・万福寺にんじんを給食で出している。その他自校献立で使用した野菜もある。	・給食だより等を通して、「健康と栄養、食事」「外国の料理と栄養」などを啓蒙している。 ・給食指導を通して、食事のマナーや楽しい会話の持ち方を指導している。 ・献立の説明を通して、「旬な材料と栄養、健康」や食事と栄養、歳時の関わりなどを指導している。
	③それ以外	特になし	特になし
2. 学校農園の状況	①学校農園の有無	無	無
	②校外農園の有無	有(250㎡程度、道路をはさんで向い側)地域の方から借用	有(900㎡、10m、徒歩20秒)
	③校内の農産物	—	—
	④校外の農産物	さつまいも、小麦、カボチャ、万福寺にんじん、インゲンなど	きゅうり、なす、落花生、とうもろこし、かぼちゃ、すいか、にんじん、だいこん
3. 地域との連携・交流	①地域(地元農業従事者)	・「農に関して取り組む」の意味をどうお考えなのかよく分からないが、本校では、地域との連携交流を通し、野菜等を栽培し、育て食する間、育てる上での苦労、大変さを学んでいく総合的な学習で扱っているため、社会科として農業について深く考えたり、学んではあえてしていない。	・5年 総合的な学習「お米づくり」 教材園(花壇程度)に手を加えて田んぼとする。早野の保護者のご協力とご指導をいただいて苗づくり、田植え、脱穀までの体験を行う。脱穀は、取れた米は少量であったが、脱穀機を学校に持参してもらい、子どもたちと一緒に脱穀をしていただいた。 ・1年～6年 生活科、総合的な学習 野菜づくり・花づくり 学校園が広いのでトラクターで年2回耕していただいている。
	②家庭	・家庭で農家をやっているところもあるので、PTAの活動として、学校に力をお貸し下さっている。	特になし
	③その他地域住民	・複数の農家の方や地域の方のご支援をいただき、梅、野菜作り、万福寺エンジン、麦まき(小麦栽培)などを行い、自校献立にも使用した。	特になし
4. 「農業体験」、「食育活動」の今後について		・今までやってきていることを、どう維持していくか。 ・疑似体験の状況から、農業として体験するまでには、とういていできないが、どこまで近づけることができるか。 ・食育を家庭教育と結びつけ、しつけ、生活習慣に役立てられればと考えている。	〈農業体験(栽培活動と読み替えて)〉 ・低学年では植木鉢を使って、高学年では学級単位で栽培を行っているが、自分が育てている意識が希薄であったり、体験としては水をあげる、雑草を取るといった作業になりがちである。 ・学校園で体験する中心的学年を選び、元肥を入れる、種をまく、間引く、徒長枝の間引きなど、栽培に知恵を体験させたい。 ・食育については、地産地消の考え方が一般化してきている。麻生区として考えたときには実現が難しいところもあるが、地産の範囲を高津区あたりまで広げて考えると可能になる。川崎産の野菜を使って、旬の取れたて野菜のおいしさを感じさせたりと近郊農業の役割や働く人への意識を高めたりする給食と学習を進めていきたい。
5. 「農業体験」、「食育活動」を推進する上での課題・問題		・予算と人の問題。最近、ボランティアという言葉がはやっているが、お手伝いしてもらえれば、謝礼も出さず、昼食も出さず、真のボランティアで行政が人を派遣してくれる制度をつくって、どんどん学校に送り込んでいただけるとありがたい。	・農園が広いので、授業や清掃時間を活用しても沉重たけで除草作業を行うことは難しい。特に夏季休業中に除草作業が行えない。また、害虫への農業利用に制限があり、就学時間帯に行えない。基本的に学校として散布を行っていないため、その害虫の影響が大きい。 ・教師の農業知識・経験が少ないため、徒長枝の剪定や添え木など基本的な手入れができない。農業体験協力者が必要である。 ・低・中学年で食育を行うためには、学校のカリキュラムを見直す中での時間の確保が必要となる。給食の中で地産地消を通して食育を行うためには、どの時期にどんな野菜を必要としているのか、生産者と栄養士の情報交換を行う必要がある。また、地域として伝えていく食文化があるときは、それを目にするしにしていく必要がある(万福寺にんじんも考えられるが、栽培の手間が大変)
6. 要望・意見	①行政に対して	・今まで学校がやってきたことを、あえて行政がやろうとしている意図が分かりませんが、「予算と人」のことを先程も書きましたが、学校支援はほとんどやっていただきたい。	・前問で答えた問題点、課題に対する情報の提供、人材の紹介を積極的に行っていただきたい。
	②地元農業従事者に対して	・大変お世話になっている。	・地域の方には、相談させていただくと気持ちよく答えていただいている。できれば、栽培指導について相談させていただきたい。一緒に農業体験のねらいと支援について話し合う機会を作りたい。
	③家庭や地域住民に対して	特になし	・今後の学校の活動への理解と協力をお願いしたい。



(2/4)

虹ヶ丘	白山	区 分	
<p>・校内に「ひろばたけ」の名称の多目的な広場・畑があり、生活科や総合的な学習の時間に活用している。</p> <p>6年と1年でサツマイモを栽培し、収穫後サツマイモパーティーを行った。</p> <p>5年が稲作を行った。</p> <p>4年がヘチマ、ヒョウタン。</p> <p>3年がナス、キャベツ。</p> <p>2年がトマト、大根。</p>	<p>○生活科、総合学習の時間・・・カリキュラムに位置づけている。</p> <p>・1、2年「ぐんぐん育てサツマイモ」苗植え～世話・記録～いもほり(黒川)～収穫祭発表会</p> <p>・3年「やさいを育てよう」土作り～苗植え～世話・観察～収穫～料理して食べる</p> <p>・4年「農園で育てよう、大きくなあれ」</p> <p>・5年「おいしい白山米を作ろう」稲を育てる体験、課題解決～学習発表会</p> <p>・6年「みんなで作ろう、思い出いっぱい的一年間」栽培実行委員会を作り活動する</p> <p>○「秋の白山祭」・・・学習発表会6年「日本食を追って」～せんべい手焼き体験・ボン菓子など</p> <p>○農業クラブとしての栽培活動</p>	①教育カリキュラム、 課外授業など	1. 現在の取組
<p>・給食だよりに、食材や栄養について関心を持ってもらえるような話を載せている。</p> <p>・給食の残さから肥料を作っていることを伝え、食べ物を大切にする思いを持たせている。</p>	<p>・自校献立の日に地産品(県内産、麻生区内産、学校農園産)を取り入れたり、親子で給食を食べる日を設けたりして、地産地消への理解を図ってきた。</p> <p>[給食]</p> <p>・食材への関心を持たせるように、一言説明してから「いただきます」をしている。</p> <p>・会食やマナー・ルールを身につけさせる。</p> <p>・給食を準備してくれた人に「ありがとう」の気持ちを育てる。</p>	②給食	
特になし	・総合や生活科の他に家庭科・保健・社会・理科・学活などで食育関連の授業を実施した。	③それ以外	
有(200㎡)	有(2300㎡)	①学校農園の有無	2. 学校農園の 状況
無	無	②校外農園の有無	
イネ、サツマイモ、ナス、トマト、ヘチマ、ヒョウタン、ピーマン、大根、キャベツ	さつまいも、かぶ、トマト、こまつ菜、きゅうり、米、大豆、水菜、落花生	③校内の農産物	
—	米	④校外の農産物	
<p>・地域めぐりの中で、農業を営まれている方の畑に伺い、話を聞いた。</p> <p>・直接農業にかかわる連携ではないが、地元の農業を営まれている方が地域の歴史に詳しいので、30周年の副読本を作成するに当たり、早野の昔の様子等についての話を伺った。</p>	<p>・地産品を使った給食で、片平で野菜を作っている方から、ブロッコリー、かぶ、にんじん、ジャガイモなどを届けてもらい、取り入れた。近くの農家で田植え体験をし、米作りについて教わった。いただいた苗を学校園の田んぼにも植え、収穫までできた。</p> <p>・「白山祭」(親子での食育関連行事)で、地元野菜についてのクイズを取り入れ、作っている人の紹介をした。</p>	①地域(地元農業従事者)	3. 地域との 連携・交流
<p>・「ひろばたけ」での稲の刈り取りや野菜の収穫時のお手伝い、また、収穫した野菜を調理するときにお手伝いをいただいた。</p>	<p>・農園で各学年が作物を育てたが、夏休み中は、親子で草取りや水やりなどの世話をした。</p>	②家庭	
<p>・本校には地域の方が運営するコミュニティがある、教育活動にたくさんの協力をしていただいている。その1つに、1・2年生の生活科で、校庭になる杏の実を使ったの杏ジャムづくりがある。</p>	特になし	③その他地域住民	
<p>・指導計画に位置づけ、継続的に取り組んでいくこと。異学年での合同の取組を増やしていくことを進めていきたい。</p>	<p>・2年間「学校給食を活用した地産地消推進事業」協力校として、食育に関する研究を進めてきたが、今後も、栽培活動を中心に続けていきたい。</p>	4. 「農業体験」、「食育活動」 の今後について	6. 要望・意見
<p>・自分達で栽培活動を行うことは意義あることで、活動自体子ども達は楽しく喜んで取り組んでいた。そこから、生産活動の意味や食べることの意味、自分や人との関わりについてどう指導するかが課題と考えている。</p>	<p>・近くに農業について教えてくれる人がいなくて困った。</p> <p>例-「大豆」の育て方、土づくり、肥料など</p> <p>・家庭との連携の仕方が難しい。プライベートに関わってくることもあり、踏み込めないことがある。</p>	5. 「農業体験」、「食育活動」を 推進する上での課題・問題	
<p>・人材の紹介や予算の確保をお願いしたい。</p>	<p>・栽培の仕方などアドバイスしてくれる人を紹介してほしい。</p>	①行政に対して	
特になし	特になし	②地元農業従事者に対して	6. 要望・意見
<p>・子ども達の健康を考えたとき、食育の大切さを家庭と一緒に考え、実践できることが大切に思う。そのためにも情報を提供したり、啓蒙を進めたりすることが必要になると思う。</p>	特になし	③家庭や地域住民に対して	

区 分		百合丘	片 平
1. 現在の取組	①教育カリキュラム、 課外授業など	・家庭科 見直そう毎日の食事 みそづくり ・総合的学習 米作りに挑戦 米づくり	・1・2年 生活科学学習の中で、古沢体験農園でのさつまいも栽培 ・3～5年 元PTA会長の畑を借用して学校園でのさつまいも栽培 (総合的学習) ・5年 保護者から稲もみをいただき、発泡スチロールでの稲作体験(平成18年度はうまくいき、収穫ができ、おにぎりにして食べた。)(理科・総合)
	②給 食	・給食だより 給食試食会	・地場の農産物を地域の方に協力してもらって、自校献立に取り入れた。 (例) たけのご飯 ・ブロッコリーの塩ゆで ・枝豆の塩ゆで など このような時は、栄養士から地元で取れた野菜であることを校内放送や書面で家庭にPRしている。
	③それ以外	特になし	・元PTA会長の畑に何度か出向き(ほうれん草やブロッコリーの栽培の実際をみて)そこで上手に育てる工夫を知り、学校園(校内)で実際にカブ・人参・ほうれん草を育てている。時々、様子を見に来校してくださった。
2. 学校農園の 状況	①学校農園の有無	無	無
	②校外農園の有無	無	有(330㎡、600m、徒歩10分)
	③校内の農産物	—	—
	④校外の農産物	—	さつまいも
3. 地域との 連携・交流	①地域(地元農業従事者)	特になし	・元PTA会長の畑に何度か出向き(ほうれん草やブロッコリーの栽培の実際をみて)そこで上手に育てる工夫を知り、学校園(校内)で実際にカブ・人参・ほうれん草を育てている。時々、様子を見に来校してくださった。
	②家 庭	・家庭科「毎日の食事 みそづくり」のみそづくりの時、授業参観時に保護者に協力をお願いした。	・ビニール袋で育てる大根の栽培を実践した時やミニトマトを鉢で栽培したときは、長期休業中に家に持ち帰り観察・記録とともに家庭で食べる体験もしてもらった。
	③その他地域住民	特になし	特になし
4. 「農業体験」、「食育活動」 の今後について		・校庭で作れる野菜などを子ども達に体験させたい。 ・子ども達がつくった野菜などを自校献立に何かを使えないか考えてみたい。 ・うどん、みそなど手づくりできる教職員もいるので、できれば総合的学習にカリキュラムを位置づけて食育に力を入れていきたい。	・現在行っている活動を続けていけたらと考えている。いろいろなことを急激に取り入れることはやはり難しさがあり、継続させながら、課題があれば、改善の方法を考えていきたい。
5. 「農業体験」、「食育活動」を 推進する上での課題・問題		・カリキュラムの充実 ・人的配置(栄養士等)	特になし
6. 要望・意見	①行政に対して	・農業体験する場の設定	・こうした活動に使える財源が欲しい。そうなると、活動の場が広がると思う。
	②地元農業従事者に対して	特になし	特になし
	③家庭や地域住民に対して	・子ども達が食に関して、興味関心ももてる様な家庭教育	特になし





(3/4)

柿 生	西生田	区 分	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年－学年園でさつまいもの栽培、野菜の栽培(生活科)</li> <li>・3年－地域の農業について(社会科)、学年園で野菜の栽培(理科)</li> <li>・5年－学校田で稲の栽培(社会科、総合的な学習の時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年－総合「バケツ稲作り」1人1つのバケツを用意し稲を育てた。種～収穫まで観察を続けることを通し、稲の一生を学習した。</li> <li>・3年－総合「教えて、町の達人」麦作り、そば茶作りを地域の「多摩美の森の会」の協力を得て実施した。麦刈り、そば刈りを体験させていただいた。 －社会科、地域の農業を見学させていただいた。畑の工夫や園芸の仕事等見学、インタビューの協力をお願いした。</li> </ul>	①教育カリキュラム、課外授業など	1. 現在の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年－食べ物の働きを知ろう 学校栄養職員と学級担任が、学級活動の時間に指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産の農産物を使用するのは、畑が少ないため無理だったが、少し広い地域を考えて、来年は農協(JA)より購入できたらと思う。</li> </ul>	②給食	
特になし	特になし	③それ以外	
有(30㎡)	無	①学校農園の有無	2. 学校農園の状況
無	無	②校外農園の有無	
稲、さつまいも、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ミニトマト、キュウリ、ナス、ピーマン、水菜、小松菜、ほうれん草	—	③校内の農産物	
—	—	④校外の農産物	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつまいもの栽培、野菜の栽培の指導</li> <li>・地域の畑作についての話を聞く</li> <li>・稲作の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年、2年生の児童が地域の農業の見学に行き、見学やインタビューをさせてもらった。</li> </ul>	①地域(地元農業従事者)	3. 地域との連携・交流
特になし	特になし	②家庭	
特になし	特になし	③その他地域住民	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生きる力を育て、勤労生産意欲を高めるために、教科、特別活動の時間帯を活用して、各学年に応じた取組を進めていきたいと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に入ってからカリキュラムが考えられるので、今後のことについては、詳しいことは決まっていない。</li> </ul>	4. 「農業体験」、「食育活動」の今後について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・単独の教科や学年の取組ではなく、複数の教科、領域にまたがり、かつ、全校児童にかかわる活動なので、1年から6年まで、見通した系統だったが指導が望まれる。そのため、関係職員の協働を必要とするが、時間の設定が難しい。</li> <li>・職員研修の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みなどの休みをはさみ連続しての世話や観察が難しく、十分な手入れができにくい。</li> </ul>	5. 「農業体験」、「食育活動」を推進する上での課題・問題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童や保護者を対象とした催しをして、楽しみながら生活を豊かにするよう啓発してほしい。</li> </ul>	特になし	①行政に対して	6. 要望・意見
特になし	特になし	②地元農業従事者に対して	
特になし	特になし	③家庭や地域住民に対して	

区 分		南百合丘	長 沢
1. 現在の取組	①教育カリキュラム、 課外授業など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別、食に関する指導(食育)の年間カリキュラムを作成し、平成18年度は取り組んだ。</li> <li>・課外授業としては、2年生がいも掘りを行い、学校でさつまいもを料理して食べた。</li> <li>・5年生で「野菜大発見」と題して、家庭科でいろいろな野菜の特徴を、いろいろな方法で発見することにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育について一学校栄養士が各学級に入り、学級活動に入り、学級活動の時間を使って、食育をしている。(今年度は1、2、5年生で行った。)</li> <li>・2年生一生活科の学習で、いろいろな野菜を栽培している。</li> <li>・3年生一社会科で、地域の農業について学習している。</li> <li>・4・6年生一学年園で、野菜の栽培をしている(理科)。</li> <li>・5年生一総合的な学習で、稲作りをしている。</li> </ul>
	②給 食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日一口メモ(食材についてや行事等)を食器かごの中へ入れ、クラスで日直や当番が読み上げることにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校栄養職員が担任と一緒に学活の時間に行っている。給食だよりの中で、給食に使われている野菜について紹介している。</li> </ul>
	③それ以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生で「夏の飲みもの」で実際に飲んで、「さとう」が多く入っていることをわからせる授業をした。</li> </ul>	特になし
2. 学校農園の 状況	①学校農園の有無	無	有(70㎡)
	②校外農園の有無	無	無
	③校内の農産物	—	ヒョウタン、ヘチマ、ゴーヤ、ジャガイモ、カボチャ、ミニトマト、ナス、ピーマン、ほうれん草、キャベツ、オクラ、ヒョウタン、キュウリ
	④校外の農産物	—	—
3. 地域との 連携・交流	①地域(地元農業従事者)	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生、米づくりを地域の方に教わっている(何度か学校に来ていただき指導してもらった。)</li> </ul>
	②家 庭	特になし	特になし
	③その他地域住民	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生、地域の農家に出かけて行き、見学やインタビューをさせてもらった。</li> </ul>
4. 「農業体験」、「食育活動」 の今後について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題として、子ども個々が苦手としている野菜を栽培することで、その野菜を食べようになればと思っている。いつになるかわからないが、働きかけを少しずつしていけたらと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生は、総合的な学習でバケツ稲作りに取り組んでいる。今後、校内のどこかに「田んぼ」をつくって、本格的な稲作り体験ができればと思っている。</li> </ul>
5. 「農業体験」、「食育活動」を 推進する上での課題・問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭に場所がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い休み(夏休み)をはさんでの世話や観察に難があるのが残念である。</li> </ul>
6. 要望・意見	①行政に対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろと情報がほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育については、学校教育だけでは指導しきれない。家庭、地域の方も借り、一緒に進めていかなくてはならない問題だと思う。</li> </ul>
	②地元農業従事者に対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の自校献立に地場産の野菜を使用したいが、運搬、量で困難があるので相談のってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜作りや米作りの体験学習。稲や苗の供給。</li> </ul>
	③家庭や地域住民に対して	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6-①と同じ</li> </ul>



(4/4)

麻 生	栗木台	区 分	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士による授業 4年 保健 「育ちゆく体」 成長と栄養のついて 6年 家庭科「ありがとうの気持ちを伝えよう」</li> <li>・担任による授業 5年 社会科 (米作り体験活動) 総 合 (カボチャと万福寺ニンジン栽培活動)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生が育てたさといもを使用して、全校で「芋煮会」を行った。人参、ごぼう、大根、長ネギなどの野菜は学校関係の農家の方から購入した。調理は、「たてわり班」で、全校分の芋煮汁を作った。</li> <li>・1年生では、さつまいもの収穫パーティー、5年生では米の収穫祭でおにぎりパーティーを行った。</li> </ul>	①教育カリキュラム、課外授業など	1. 現在の取組
特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元でとれる野菜を、自校献立日の食材として取り入れた。</li> <li>・多摩、麻生地区では、春に「のらぼう菜」が出回るが、スーパー等には並ばないので、初めて食べる子どもも多かったようで、給食日より等で紹介した。</li> </ul>	②給 食	
特になし	特になし	③それ以外	
有 (30㎡)	有	①学校農園の有無	2. 学校農園の状況
無	有 (徒歩30分)	②校外農園の有無	
米、カボチャ、万福寺ニンジン	ミニトマト、ヘチマ	③校内の農産物	
—	さといも、さつまいも、米(5年生)	④校外の農産物	
特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元農家の方に畑を借りている。マルチがけや除草作業なども手伝っていただいている。</li> <li>・校内でも、ミニトマトを植えるための土を寄付していただき育て方の指導を受けた。田んぼも借用し、田植え、稲刈りの仕方を指導していただいた。</li> </ul>	①地域(地元農業従事者)	3. 地域との連携・交流
特になし	・芋煮会での協力依頼	②家 庭	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・苗や種の提供</li> <li>・栽培活動の支援</li> <li>・ゲストティチャーとして授業への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春、筍がたくさん生えてくる山があり、地主さんのご厚意で、5年生が筍堀をさせてもらっている。時季が合えば、自校献立にも使用する。</li> </ul>	③その他地域住民	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭による授業を増やしていく。</li> <li>・地場産の野菜を給食に利用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元黒川には、まだたくさん自然が残っていて、畑もたくさんある。地域の農家の方とのつながりも強いので、農業体験を通して食育につなげていきたい。児童数の急激な増加により、いろいろと制限はあるが、地元でとれる野菜や卵をできるだけ取り入れていきたいと思う。</li> </ul>	4. 「農業体験」、「食育活動」の今後について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化による水田の水もれ等、施設面での不備</li> <li>・耕地面積が狭く収穫量が少ないので、児童一人一人に栽培の充実感を持たせることが難しい。</li> <li>・給食で地場産の野菜を使いたい、収穫の時期と学校で利用したい時に違いがあることや、個人農家のために学校への配送などに問題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員参加型にするためには、児童数が多すぎる。</li> <li>・畑が遠いため、頻繁に行くことが難しい。</li> </ul>	5. 「農業体験」、「食育活動」を推進する上での課題・問題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の農業従事者との連携のバックアップや資料・情報の提供</li> </ul>	・学校栄養職員1校1名配置	①行政に対して	6. 要望・意見
・農産物を時間指定で配送できれば給食に利用したい	特になし	②地元農業従事者に対して	
特になし	特になし	③家庭や地域住民に対して	





### 事例3

## 高齢者が輝く地域づくり

### (1) 元気高齢者の地域参加について

区民会議のテーマである「心が響きあう地域づくり」の具体的な事例として、元気な高齢者が地域活動への参加や高齢者の見守りを通じて、どのように地域づくりにつなげていくかについて、専門部会を設置して調査・審議を行いました。

まず課題に対する行政・区民等の取組を把握するとともに、また高齢者が集える場の確保として、地域にある既存施設としての老人いこいの家に注目し、老人いこいの家の指定管理者からのヒアリングを実施するとともに、老人いこいの家の運営委員、利用者のアンケートを実施いたしました。

### (2) 区民会議における主な取組

#### 関係情報の収集

生涯現役対策事業、老人クラブ、老人いこいの家、老人福祉センター、高齢者無料職業相談など行政の取組やふれあいサロンなど区民が中心となって行っている取組など現状の取組を把握しました。

#### 現地調査

片平老人いこいの家を視察、関係者のヒアリングを行いました。

#### アンケート実施

高齢者が集える場の確保として、地域にある既存施設として、老人いこいの家に注目し、老人いこいの家の運営委員及び利用者あてにアンケートを実施いたしました。

#### 関係者ヒアリングの実施

老人いこいの家の指定管理者である麻生区社会福祉協議会及び神奈川高齢者生活協働組合のヒアリングを実施いたしました。

### (3) 第1期区民会議の取組内容及び今後の展開

課題	第1期区民会議の取組内容	今後の展開(予定)
元気な高齢者が地域活動への参加や高齢者の見守り	老人いこいの家の運営委員、利用者のアンケートを実施 アンケート結果を踏まえ、老人いこいの家の活性化に向けた取りまとめ 指定管理者である麻生区社会福祉協議会、神奈川高齢者生活協働組合のヒアリングを実施	第1期の取りまとめをもとに、区民会議として関係機関と協議・調整を行う予定

## 区の課題

### 1. 区の課題

#### 標題

『心が響きあう地域づくり』  
事例～高齢者が輝く地域づくり

#### 課題の内容

～元気高齢者の地域参加や高齢者の見守りを通じて、どのように「地域づくり」につなげていくか～

[事例の絞込み]

- ① 元気高齢者の地域参加
- ② 高齢者の見守り

### 2. 課題に対する現状の行政・区民等の取り組み

- ① 行政の取り組み  
生涯現役対策事業（高齢者福祉のしおりP63～69）

ア 生涯現役支援サービス  
イ 老人クラブ  
ウ 老人いこいの家  
エ 老人福祉センター  
オ 高齢者無料職業紹介 など

- ② 区民等の取り組み

ア ふれあいサロン  
イ サークル活動  
ウ ボランティア活動 など

### 3. 課題の解決策のアイデア

- ① 高齢者が集える場の確保

#### ア 地域にある既存施設の活用

↓

#### 【老人いこいの家の活用】

- ・ 指定管理者からの意見聴取  
[神奈川高齢者生活協同組合]  
[麻生区社会福祉協議会]  
(19. 11. 28)
- ・ 所管課からの意見聴取  
(19. 11. 28)
- ・ 利用者及び運営委員アンケートの実施  
[利用者]  
20. 1. 18～2. 1 委員による聞き取り調査を実施  
[運営委員]  
20. 1. 18～2. 1 郵送方式で実施

#### イ 既存施設を活用した高齢者カフェやスナックの設置

- ② 趣味などを通じて知り合う（イベントや各種の教室などの開催）
- ③ 公共施設に高齢者資料コーナーを設置する（区役所ロビーなど）

### 4. 課題解決策

- ① 短期的対応策

ア 「老人いこいの家」アンケート結果の取りまとめ、情報の提供（行政、指定管理者、運営委員、利用者、地域の関係団体、区民等）

イ 「老人いこいの家」活性化に向けた提案（短期的提案）

■ 達成期間  
平成20年度～

- ② 中・長期的対応策

ア 「老人いこいの家」活性化に向けた提案（中・長期的提案）

■ 達成期間  
平成22年度～



### の具体化に向けた検討

■主な担い手と役割  
○区民

○区

○市

提別案紙「活性化に向けた」

■予算見込み額の検討

■予算確保の手法

■関係部局・機関等  
・健康福祉局  
・指定管理者

■主な担い手と役割  
○区民

○区

○市

提別案紙「活性化に向けた」

■予算見込み額の検討

■予算確保の手法

■関係部局・機関等  
・健康福祉局  
・指定管理者

#### 5. 課題解決により期待される効果、成果

ア 元気高齢者の地域活動への参加促進

イ 地域の既存施設の有効活用

ウ「老人いこいの家」の利用促進、活性化

#### 6. 総合計画上の位置付け

ア 幸せな暮らしを共に支えるまちづくり

イ 参加と協働による市民自治のまちづくり

#### 7. 課題解決に向けた取組

ア「老人いこいの家」活性化に向けた提案

イ アンケート結果の情報提供 → 行政、指定管理者、運営委員、利用者、地域の関係団体、区民等

#### 8. 課題解決への取組の評価、進行管理

①評価

②進行管理

## ● 老人いこいの家の活性化に向けた取りまとめ ●

項 目	提 案 内 容	提 案 理 由		
【ハード系】	1 施設	①設置基準の変更 ・中学校区→小学校区へ	・徒歩15分圏内から通って来る人が多い→中学校区では所管する範囲が広い→徒歩利用圏内に設置 ・交通至便な場所での設置	
		②「ミニいこいの家」づくり ・地域の既存施設(わくわくプラザ、こども文化センター、町会・自治会館、学校の空き教室、空き店舗等)の活用	・活動の場の拡充 ・既存施設の有効活用 ・地域や子どもなど世代間のかかわり	
		③増改築 ・施設の増築 ・施設の改築(浴室、ボイラー室等遊休スペースの縮小、撤去等)	・活動スペースが少ない、狭い	
		④内装の改修 ・床の改修、壁紙の張替え等	・施設老朽化への対応 ・変わる利用者ニーズへの対応	
	2 設備	①トイレの改修 ・洋式化、暖かトイレ、ウォシュレット	・生活様式に適応	
		②電力許容量の増加	・施設機能強化に向けた対応	
	3 備品	①FAX付き電話の設置	・施設機能の向上 ・地域活動支援に向けた取組 ・利用者ニーズへの対応	
		②OA機器(コピー機、パソコン等)の配置	・施設機能の向上 ・地域活動支援に向けた取組 ・利用者ニーズへの対応	
	4 駐車場	①送迎用駐(停)車場の確保	・遠距離利用者への対応	
	5 案内標示	①適切な案内標示の設置	・施設への親切な誘導 ・地域への施設の存在感のアピール	
	【ソフト系】	6 送迎	①送迎ボランティアシステムづくり	・利用促進に向けた取組
		7 広報・PR	①公共施設における広報紙、チラシの配布	・利用促進に向けた取組 ・PR不足への対応
			②広報紙、チラシの町会・自治会での回覧	・利用促進に向けた取組 ・PR不足への対応
			③広報紙、チラシの作成、内容の充実	・利用促進に向けた取組 ・PR不足への対応
		8 ボランティア	①運営ボランティア(相談・話し相手等)の配置	・利用者サービスの向上 ・管理人の負担軽減
			②町会・自治会など地域の関係団体からのボランティア派遣	・利用者サービスの向上 ・地域による施設運営支援
		9 講座	①利用者ニーズに即した魅力ある講座の提供	・利用促進に向けた取組
②受益者負担の検討			・魅力ある講座の提供→受益者負担の導入	
③講師の人材確保			・魅力ある講座の提供	
10 開館時間・開館日		①平日の開館時間の延長(午後5時まで)	・利用者サービスの向上	
		②夜間、日曜・祝日の条件付き開館の拡充	・利用者サービスの向上 ・地域活動支援に向けた取組	
11 名称		①施設名称からの「老人」の削除	・「老人」のマイナスイメージの払拭	
12 資金		①運営費予算の増額	・利用者サービスの向上	
13 利用者		①利用者年齢の引下げ	・利用促進に向けた取組 ・地域活動支援に向けた取組	
		②利用者家族の利用	・利用促進に向けた取組 ・地域活動支援に向けた取組	
14 運営委員会		①運営委員会の機能の見直し ・委員構成、任期、開催回数、選出方法等	・運営委員会の活性化→利用者サービスの向上	
15 職員体制		①職員体制の見直し ・管理人1人体制→職員複数配置(管理人に加え、健康チェックができる職員の配置が望ましい)	・職員体制の充実→利用者サービスの向上	
16 情報交換	①利用者懇談会(指定管理者+管理人+運営委員+利用者)の開催	・認識の共有化→利用者サービスの向上		
	②運営委員同士の情報交換会の開催	・認識の共有化→利用者サービスの向上		
17 諸規程	①柔軟な運営を実現するための諸規程の見直し	・柔軟な運営の実現→利用者サービスの向上、地域活動支援に向けた取組		





## ● 「老人いこいの家」運営委員アンケート 〈考察〉 ●

### I あなた自身のことについて

#### 問1 性別 から

(1) 「老人いこいの家」の運営委員は男性が多く、利用者は女性が多い。

#### 問2 年齢 から

(1) 運営委員には、中年層である40～60歳未満と後期高齢者である75歳以上の委員もおり、多様な運営ができる可能性を秘めていると考えられる。

#### 問3 運営経験 から

- (1) 運営経験が2年～7年程度の委員が多いが、この期間は、施設のことがよく分かってきて、課題が何なのか把握できて、実行に取り組もうと意欲に燃える期間ではなかろうか。
- (2) 市の規約では、各種委員の任期は最高10年までとされているので、「老人いこいの家」の運営委員もそれに準拠してはどうだろうか。
- (3) 社会の変化に応じて、施設の運営も臨機応変に運営できることが望ましい。さらに、地域の人たちができるだけ多く、地域にある公共施設の運営を経験することが望ましく、その体験が地域での高齢者を支える力になると考えられる。

#### 問4 きっかけ から

(1) ボランティアや地域の協力が運営委員にすることは、これからの施設の運営に期待が寄せられる。地域社会の中で高齢者を支える大きな役割を担っていく人材を一人でも多く育成してほしい。

### II 運営に関して

#### 問1 人数 から

(1) 運営委員の人数は、平均すると15人程度のところが多い。委員の人数や選出母体は、規約などである程度決めてはどうだろうか。

#### 問2 回数 から

(1) 運営委員会の回数は、3回程度のところが多い。開催回数についても、規約などである程度決めてはどうだろうか。

#### 問3 利用時間 から

- (1) 改善の要望は低かったが、この中では平日の開館時間の延長(17時まであるいは夜間まで)、日曜・祝日の開館があげられている。
- (2) 今後、団塊の世代が地域が増えていくことが予測される。こうした人々の活動は、昼間は仕事の延長上にあることから、夜間に自宅近くの地域で活動できる場所があると参加しやすくなるのではないか。

#### 問4 設備 から

(1) 現状でよいとする回答が半数を超えているが、施設の有効活用を図り、地域の活動の拠点とするためには、公共施設としてOA機器等の設置は必要ではないか。

#### 問5 運営費 から

(1) 現状でよいとの回答が半数を占めているが、予算の増額を求める意見もある。施設運営上必要な予算は増額を要望することも必要ではないか。

#### 問6-1 活性化への取組み から

- (1) この回答からは、運営委員が要望を出すだけでなく身近に出来ることから実行しているのが分かった。
- (2) また、運営委員になって、「老人いこいの家」の運営に積極的に関わろうとする人もいることは大変すばらしい。

#### 問6-2 できない理由 から

- (1) 講師謝礼については、押さえている印象がある。市民館をはじめとして他の公共施設で講座等を行っており、それらを参考にして講師謝礼等は講師の社会的評価で判断して謝礼を出してもいいのではないか。
- (2) この場合、受講者負担を検討してもいいのではないか。地域の社会的な人材を積極的に活用するため

に、規則・規約等の改善は今日の社会的な要請であると考えられる。

- (3) 「老人いこいの家」の予算の仕組みが分からないが、管理、事業予算等施設で執行できる予算があると、運営委員会や「老人いこいの家」の活動が活発になるのではないかと。

#### 問7 その他の運営改善点 から

- (1) 回答数は少ないが、改善点として運営委員会が機能していないとの回答があった。「老人いこいの家」の運営に大きな支障をきたすことが考えられるので、運営委員及び運営委員会のあり方を見直すことも必要ではないか。
- (2) また、行政や公共機関では委員を公募しており、公募を実施することによって熱意とやる気のある地域の人材を登用することも必要ではないか。

#### 問8 管理人以外のボランティア から

- (1) 管理人は結構多忙で、来館する人を一人ひとり玄関で迎えることができないし、お茶を入れる時間もないくらい、施設中を駆け回っている。
- (2) 老人を温かく迎え入れるボランティアや話し相手・相談相手になってくれる人材が必要ではないか。
- (3) また、利用者の中には、自宅から30分以上かけてやってくる高齢者(70歳以上の利用者が多い)も多く、将来的には75歳以上の利用増が見込まれる。今から、送迎ボランティアのあり方を検討しておくことが大変重要ではないかと思われる。

### Ⅲ 行事等の企画に関して

#### 問1-1 教養講座について から

- (1) 教養講座は、地域の社会的な人材を有効に活用して、教えたり・教えられることによって、知縁的關係を確立するのに重要な役割を果たしていると考えられる。その活用拡大が望まれる。
- (2) 教養講座に対する予算の充実や、参加者の一部負担などの工夫が、運営委員会でより積極的に取り上げられてもよいのではないかと。

#### 問1-2 3年限度 から

- (1) 教養講座については、現状を維持しながらも、何らかの工夫を凝らしていきたいとする委員の苦勞がアンケート結果に表れているように見受けられた。

#### 問2-1 自主講座、問2-2 今後の自主講座への意見 から

- (1) 自主講座、教養講座とも、参加しやすい環境をつくらないと初めての人には参加しにくいように感じられた。

#### 問3-1 行事・イベント、問3-2 今後の実施希望 から

- (1) 世代間交流として、子どもとの交流やこども文化センターと連携した行事やイベントは大切にしていきたい。
- (2) 自己表現の機会として、自主講座発表会、演奏会、演芸大会、おしゃべり会なども大切にしていきたい。
- (3) 行事・イベントが運営委員と利用者及び近隣の子どもを含めた住民、指定管理者等との交流の場になれば、「老人いこいの家」の存在が増していくのではないかと。

### Ⅳ これからの活動

#### 問1 活性化に向けて から

- (1) 「老人いこいの家」の利用者を増やすためには、魅力ある講座を企画し、効果的な広報を行い、近隣の人を誘いあうことが大切であると思われる。
- (2) 今後は、現役をリタイアする団塊の世代(新老人)を地域社会やその中にある施設に目を向けさせ、足を運ばせる努力が求められる。

#### 問2 男性の利用増 から

- (1) 回答の中には、男性向けの講座、イベントの企画実施等の貴重な提案があるので工夫が望まれる。

#### 問3 名称 から

- (1) 「老人」という言葉にマイナスイメージがあるように感じられた。少なくとも「老人」の言葉は削除した名称にした方がよいと思われる。

#### 問4 必要な協力 から

- (1) 高齢者を地域で、手をかけ・目をかけ・心をかけ合う関係を幾重にも作っておくことが必要ではないか。

#### 問5 これからの生き方 から



- (1) 高齢者のこれまでに蓄積した経験や資格などを地域の中で生かすことが、高齢者の生きがいとしての趣味や仲間のいる生活や元気なパワーの大きな要素になるのではないか。

## ◎ まとめ

### 1 運営委員の選任等について

- (1) 運営委員の年齢は、65歳～75歳未満に集中しており、「老人いこいの家」の利用者と同年齢層になることから、利用者の立場にたった運営を考えると同時に、利用者にも親近感がわくのではないかと。
- (2) 運営経験が2年以上7年未満の委員が多い。運営委員の任期には特段の定めはないとのことだが、地域の人ができるだけ多く、「老人いこいの家」の運営委員に携わり、地域の中でその経験を生かすことが重要である。そのためには、ある一定の年数で委員を交代する(市では原則として各種委員会の任期を10年と定めている)ことにしてはどうだろうか。
- (3) 運営委員は地域の名誉職ではなく、「老人いこいの家」の運営に積極的に取り組む人材が望ましい。熱意と誠意と創意のある人が運営に携わることによって、「老人いこいの家」は活性化していくに相違ない。したがって、運営委員には、団体からの推薦も必要だが、地域からの人材を募ること(委員公募の実施)も今日の社会の流れに添うことになる。また、運営委員の選出分野をある程度定めておくことが必要ではないか。

### 2 運営に関して

- (1) 運営委員の人数は、15人前後の施設が多い。この人数が妥当かどうかは役割と活動内容によると思われるが、規約等である程度の目安を定めてはどうだろうか。
- (2) 「老人いこいの家」の健全な運営を目指して、次のような委員の役割がアンケートから読み取れる。
  - ① 魅力ある講座の企画・実施
  - ② 広報の充実を図る
  - ③ 交流の促進
  - ④ 利用者の快適、安心安全な居場所、たまり場の確保及び改善
- (3) アンケート項目には無いが、上記のような役割を果たすには、運営委員の資質の向上は欠かせないものと考えられる。そこで、次のような取組を提案したい。
  - ① 研修の機会を設けること
  - ② 他の「老人いこいの家」の運営委員と定期的に情報交換会を開催すること
  - ③ 運営委員会、指定管理者、利用者の三者による意見交換会を定期的に開催すること
- (4) 運営委員会が機能していないという回答があった。運営委員会開催の回数を含めて委員会のあり方を見直すことが必要と思われる。
- (5) 運営費がどのような仕組みになっているのか不明ではあるが、運営委員会が独自に事業に対し、予算執行できる仕組みを検討する必要があると思われる。

### 3 行事の企画等について

- (1) 運営委員会で、教養講座に対する予算の充実や参加者の一部負担などの工夫がより積極的に取り上げられてもよいのではないかと。
- (2) 世代間交流としての子どもとの交流やこども文化センターと連携した行事やイベント、発表会・演奏会・演芸大会を企画して活性化や地域に対するPRに役立てることが必要と思われる。

### 4 これからの活動に向けて

- (1) 総体として、運営委員と利用者は、現在の施設運営と利用状況に満足している傾向にある。
- (2) 夜間開放、時間延長、日曜・祝日利用については、運営委員、利用者とも現状維持が多い。しかし、少数意見としてはあるが、前記提案も出ているので、利用人数増大とさらなる活性化のために考慮すべきである。
- (3) 少数意見に見られるが、施設の有効活用を図り、地域の活動の拠点とするためには、公共施設として最低限のOA機器、コピー機、FAX付き電話は設置することが望ましいと考える。
- (4) 利用者の声を聞く「意見箱」等を設置し、改善や利用者のアイデアを運営に取り入れていくシステムを図ることが必要である。
- (5) 地域に開かれてこそ「老人いこいの家」が活性化する。したがって、町会・自治会などとも連携と交流を密にし、「老人いこいの家」を積極的にアピールしていくことが望まれる。
- (6) 課題も少数意見などから知ることができた。高齢者がいつまでも元気に孤独にならないで、地域の中で活動できる拠点であってほしいと願う。

# ●「老人いこいの家」利用者アンケート〈考察〉●

## I あなた自身について

### 問1 性別 から

(1) 福祉パルや市民館をはじめとして一般的に女性の参加が多い傾向にあるが、「老人いこいの家」の利用者も同じような傾向にある(福祉パルや他の公共施設利用や参加の一般的傾向の比率と考えられる)。しかも、男性の利用は囲碁等に偏りがちであり、男女共同参加の対象では男性が少なく、一部では、女性から男性参加増の要望もヒアリングできた(例～カラオケ)。

### 問2 年齢 から

(1) 一般的な傾向として、前期高齢者(65～75歳未満)の利用が多く、後期高齢者(75歳以上)の利用が少ないが、今後の高齢化の進展を考えると、後期高齢者(75歳以上)を念頭に置いた「老人いこいの家」の利用や活動を考慮していく必要がある。  
後期高齢者がいつまでも元気に「老人いこいの家」に来られ、楽しく仲間たちと過ごせる手立てを検討することが必要である。

### 問3 家族構成 から

(1) 利用者のうち、一人暮らしの割合は女性が男性を上回っており、年齢が高くなれば高くなるほど女性の一人暮らしが増えるものと思われる。

### 問4 住所 から

(1) 区内がほとんどであった。

### 問5 他の活動 から

(1) 利用者の多くは何らかの活動に参加している。「老人いこいの家」の利用を通して、地域の様々な活動に興味・関心を持ち、そして参加し生活の幅を広げ、生活を充実し豊かにしていくことに継がっていくとよい。

### 問6 関心 について

(1) 関心の一番は健康である。今後は元気高齢者の地域参加の場として「老人いこいの家」を活用していくことで、ボランティア活動や地域での公的活動につなげていくことが大切になるのではなかろうか。  
(2) 個の関心から「公」へと関心が広がることを期待したい。

## II 利用について

### 問1 きっかけ から

(1) 「老人いこいの家」に来るきっかけとしては、友人の誘いや人づてによる方法が一番効果的であるようだ。  
(2) 広報紙は、男性よりも女性が多くみている。回覧だと女性が見る機会が多く、男性は目に触れることが少ないようである。

### 問2 方法 から

(1) 現在は徒歩で来る利用者が多いが、後期高齢者になると難しくなるのではないかと。将来的には、元気な高齢者だけが自力で「老人いこいの家」に来られるのではなく、歩行等の困難な場合でも来たいという意思がある高齢者には、高齢者の生きる権利として何らかの保障をする手立てが必要ではないか。  
(2) したがって、送迎ボランティアの養成や傾聴ボランティア、その人に必要な情報収集及び提供をする人材を地域の中で確立するシステムづくりが求められるのではなかろうか。  
(3) 配置基準が中学校区に1施設ということで、30分以上歩いて来る利用者もいる。また、交通の便が必ずしも便利など所に設置されていないので、バスと電車を乗り継ぐなど大変な苦労をして来る利用者もいる。将来的には、小学校区に設置されるとより近くなって便利になり、利用されるに相違ない。

### 問3 期間 から

(1) 5年以上の利用者が約半数と一番多いことは、常連の利用者で固まっていることを意味しているのだろうか。  
(2) 男性は1年未満の利用が少なく、誘われても自分の中で躊躇したり、気が進まなかったりすることがあつ



て利用が少ないのではないか。

- (3) 女性の方が誘われると素直に参加し、そして仲間を増やし楽しさを増やすが、男性はそのようなことがなかなかできないのではないか。

**問4 回数** から

- (1) 週1回の利用者が多いが、月4回以上の回答も47人あり、これは週と月の回数を混同したのではないと思われる。これが週1回に該当すれば週1回の利用者はさらに増えることになる。

**問5 利用法** から

- (1) 「老人いこいの家」は、個人で利用する領域やスペースが少ないように感じられる中で、個人利用の割合(16.7%)が高いように思われる。個人利用をすることで、仲間ができたり、グループに入ったりして次のステップに進められるとよい。

**問6 過ごし方** から

- (1) 講座に参加して過ごすとの回答が一番多いが、講座は、個人の意思で気軽に参加できるのがよい。ただし、講座開設には条件があって、参加者を十分に満足させるのは難しいという話を聞く。  
 (2) 介護予防関係のミニディやリハビリへの利用参加が少ないように思われる。  
 (3) 高齢者の活動として、知的・体力・精神力・感性を磨く場であってほしい。併せて、高齢者の生きる権利を認め保障する施設であってほしい。

**問7 感想** から

- (1) 利用者の満足度は非常に高く、それだけ利用者には気持ちよく、楽しく使われていることになる。その陰には、管理人の気配り等のよさがあると思われる。  
 (2) 不満は少ないが、利用する部屋の狭さによる増築願望がある。

**問8 利用増** から

- (1) 講座を充実し利用増を図るという回答が一番多い。印刷機器やOA機器の設置されていない「老人いこいの家」が、これまでの運営委員や管理人の個人的な努力で講座等が開催されてきたことは、大変な苦勞をされていると高く評価したい。  
 (2) しかしながら、これから高齢者の地域活動の拠点施設として利用されるためには、「老人いこいの家」の最低限の条件整備として、コピー機・ファックス・パソコンは設置すべきだと考える。  
 (3) これら機器設置について、区民会議として、行政や指定管理者に提言していくことが必要であると考えられる。  
 (4) 夜間開放、時間延長、日曜・祝日開館について少数からの要望があった。

**問9 男性の増** から

- (1) 未回答が多く、関心の程度が低かった。しかし、Iの問1のとおりであり、男性用の講座等の開催により魅力アップを図る必要がある。

**問10 名称** から

- (1) 未回答の割合が高かったが、回答の中では、現状どおりでよいと「老人」を削除し「いこいの家」にするだけでよいとする意見が多かった。  
 (2) 市では、「長寿ケアホーム」の名称も付けているが、利用者にはこの名称が浸透されていないのではないかと。利用者からそのような回答はなかった。

**Ⅲ 今後の活動について**

**問1 場や団体** から

- (1) 未回答が多数(74.2%)であり、残念ながらこの設問の意味が理解されなかったのではないかとと思われる。

**問2 あり方** から

- (1) 日曜・祝日の開館や夜間利用の要望もあるが、その必要性を強く感じるまでには至っていないのではないかと。なお、夜間利用の回答は男性に多かった。

**問3 生き方** から

- (1) 今後は、地域活動をもっと活発にして、前期高齢者は地域で元気に活動し、女性が多くなる後期高齢者は「老人いこいの家」で仲間と楽しく過ごすことができればよいのではないかと。

## ◎ まとめ

- 1 70歳～75歳未満の利用者が多いことは、この人たちが間もなく後期高齢者の仲間入りをする。アンケートでも、後期高齢者の利用率の低下が見られるが、今後は後期高齢者にスポットを当てた取り組みや対策が必要になるのではないかと。
- 2 したがって、後期高齢者にとっては、徒歩5分～15分圏内で気軽に集える場所があることが望ましい。
- 3 現在、認知症等の限られた「グループホーム」を、後期高齢者の元気な活動にも適用して、小グループでの拠点づくりを図ることが望ましい。
- 4 地域社会の中で自助・共助の関係が確立されることが重要である。身近に後期高齢者の世話をすることのできるボランティアを育成し、活用できるようなシステムが地域社会に求められる。
- 5 後期高齢者の一人暮らしの増加が予想される。自宅を気軽に開放して、茶のみ友達や趣味の仲間等と楽しく集える機会を作り出したり、かつて存在していた「招き、招かれたりする関係」を地域社会に復活させたいものである。この考えを実現する方法として「ミニいこいの家」づくりを要望したい。
- 6 例えば、地域社会にある空間を、高齢者に有効活用していく。商店街の空き店舗、学校の空き教室、廃校の活用、空き住宅、銀行の会議室、公園等を借り受けて、高齢者の活動拠点を身近に作り出していきたいものである。
- 7 「老人いこいの家」の設備充実を図ることが望ましい。高齢者の地域活動の拠点にふさわしい施設であるためには、コピー機、ファックス、パソコンは是非設置するように提言したい。
- 8 自分たちで施設の講座等のチラシを作成し、地域に広報したり、情報収集・発信やネットワークを図り、積極的に地域との交流を促進することが必要である。
- 9 管理人は2人体制を取っているが、交代制勤務であり施設に常駐しているのは1人である。人数の増加を図り、不測の事態への対応や講座等の充実などを図っていく必要がある。
- 10 利用者の満足度は極めて高いが、不満の中には施設面積の狭さの指摘から、増築の要望もある。
- 11 利用を増加させるアイデアはいろいろある。その中には、広報、標示、講座の改善の要望が多く、差し迫った課題である。
- 12 名称では、回答者の多くは「老人」の削除を要望しており、改善の実行を急ぐべきである。
- 13 今後のあり方については、増改築、施設増、他の高齢者施設の増を合わせたハード関係の改善要望があり、開設以来、年数が経過して時代の趨勢にマッチしなくなった様子が読み取れる。高齢者が気楽に集える施設としての期待に応えていただきたい。



## ● 「老人いこいの家」運営委員アンケート 〈集計表〉 ●

① 対象者数	89人
② 回答者数	60人
③ 回答率	67.4%

### I あなた自身のことについて

問1:性別

1. 男	2. 女	未回答	合計
36	23	1	60
60.0%	38.3%	1.7%	100%

※数値から(人)は省略してある

- ① 区内の「老人いこいの家」の運営委員は89人で、性別では男性が59人(66.3%)、女性が30人(33.7%)となっている。
- ② 本アンケートには、男性運営委員から36人、女性運営委員から23人の回答があった。(性別未回答1人)
- ③ 運営委員は男性が多く、利用者は女性が多い。

問2:年齢

1. 40未満	2. 40～50未満	3. 50～60未満	4. 60～65未満	5. 65～70未満		
0	1	9	5	16		
0.0%	1.7%	15.0%	8.3%	26.7%		
6. 70～75未満	7. 75～80未満	8. 80～85未満	9. 85以上	未回答	合計	
21	3	4	1	0	60	
35.0%	5.0%	6.7%	1.7%	0.0%	100%	

- ① 運営委員の年齢層は、70～75歳未満が35.0%と一番多く、次いで65～70歳未満の26.7%である。
- ② また、回答の中には中年層にあたる40～60歳未満が16.7%、後期高齢者にあたる75歳以上が13.4%あった。

問3:運営経験

1. 1年未満	2. 1～2未満	3. 2～3未満	4. 3～5未満	5. 5～7未満		
3	6	15	9	11		
5.0%	10.0%	25.0%	15.0%	18.3%		
6. 7～10未満	7. 10～15未満	8. 15～20未満	9. 20～30未満	10. 30年以上	未回答	合計
5	5	1	1	0	4	60
8.3%	8.3%	1.7%	1.7%	0.0%	6.7%	100%

- ① 運営委員の運営経験は、2～3年未満が25.0%と一番多く、次いで5～7年未満の18.3%である。
- ② また、回答の中には10年以上の経験がある運営委員が11.7%あった。

問4:きっかけ

1. 団体推薦	2. 利用者	3. ボランティア	4. 地域協力者	5. その他	未回答	合計
47	3	6	6	4	0	66
71.2%	4.5%	9.1%	9.1%	6.1%	0.0%	100%

- ① 運営委員になるきっかけは、団体推薦が71.2%で圧倒的に多く、次いでボランティアと地域協力者が各9.1%となっている。
- ② その他の中では、老人クラブ、神奈川高齢者生活協組合、柿生地区社会福祉協議会高齢者部会などがみられた。

### II 運営に関して

問1:人数

1. 現状	2. 多い	3. 少ない	未回答	合計
48	9	2	1	60
80.0%	15.0%	3.3%	1.7%	100%

- ① 現状のままとするが80.0%で圧倒的に多いが、多いと回答した委員も15.0%いる。
- ② 施設別にみると、多いところは18人、少ないところは13人で、14～15人のところが多い。

問2:回数

1. 現状	2. 多い	3. 少ない	未回答	合計
35	7	18	0	60
58.3%	11.7%	30.0%	0.0%	100%

- ① 現状でよいの58.3%が一番多く、次いで少ないが30.0%である。  
 ② 施設別にみると、一番多く開催しているところは7回、少ないところは1回で、3回の開催としているところが多い。

問3:利用時間

1. 現状	2.要改善	未回答	合計
47	12	1	60
78.3%	20.0%	1.7%	100%

- ① 現状でよいが圧倒的に多く78.3%である。  
 ② 要改善12人(20.0%)のうち10人が平日の時間延長を求めている。

問4:設備

1. 現状	2.要改善	未回答	合計
32	24	4	60
53.3%	40.0%	6.7%	100%

- ① 現状でよいが53.3%が多い。  
 ② 要改善は40.0%で、その内訳は次のとおり多種多様である。
- ・入浴施設の廃止及び改修
  - ・駐車場の設置
  - ・カラオケ機器の改善
  - ・OA機器の設置
  - ・マッサージチェアの設置
  - ・カーペットを畳に戻す
  - ・こども文化センターと同程度の設備にする
  - ・台所の改善
  - ・卓球室の拡張
  - ・エアコンを省エネタイプに変更する
  - ・足の不自由な人用の椅子の設置
  - ・座椅子の増
  - ・ピンク電話を一般の電話に変更する

問5:運営費

1. 現状	2.要改善	未回答	合計
30	26	4	60
50.0%	43.3%	6.7%	100%

- ① 現状でよいが50.0%が多い。  
 ② 要改善は43.3%で、その主な内訳は次のとおりである。
- ・予算の増額(圧倒的に多い)
  - ・管理人の増
  - ・管理人の人件費の減
  - ・講師謝礼の増額
  - ・利用料の徴収
  - ・管理人の増
  - ・会計担当者の増
  - ・機器類の修繕費の増額

問6-1

:活性化への取組  
 \* 複数可

1. 広報	2. 教養講座	3. 予定表	4. 掲示		
16	15	12	5		
15.1%	14.2%	11.3%	4.7%		
5. Q&A	6.改修	7. 配置換え	8.その他	未回答	合計
6	13	9	12	18	106
5.7%	12.3%	8.5%	11.3%	17.0%	100%

- ① 未回答が17.0%が多いが、回答の中では、広報への取組が15.0%で一番多く、次いで新しい教養講座の企画が14.2%であるが、回答は全体的に分散している。  
 ② その他が11.3%あり、その内訳は次のとおりである。
- ・施設の周りの山林の清掃
  - ・トイレの和式を洋式に改修
  - ・大広間の畳を絨毯に(足が冷えてよくない)
  - ・チラシを公共機関に置いた
  - ・アンケートの実施
  - ・おしゃべり会の開催
  - ・大広間入り口のスロープ化
  - ・相談室を整理し使用できるようにした
  - ・運営委員になった





問6-2

：できない理由

1.資金	2.諸規程	3.その他	未回答	合計
12	5	3	45	65
18.5%	7.7%	4.6%	69.2%	100%

- ① 未回答が69.2%が多い。  
 ② 回答があった30.8%のそれぞれの内訳は次のとおりである。
- 資金不足では、
    - ・ 樹木剪定の予算
    - ・ イベントの企画予算
  - 諸規程に抵触では、
    - ・ 講師謝礼に制限があり優秀な人は無理
    - ・ 電気の契約アンペア変更ができなかった
  - その他では、
    - ・ 運営委員長のやる気のなさ
    - ・ ピアノ調律の予算
    - ・ 人手不足の悪循環

問7:改善点

回答有	未回答	合計
21	39	60
35.0%	65.0%	100%

- ① 未回答が65.0%が多い。  
 ② 回答があった35.0%の内容は次のとおりである。
- ・ 運営委員会が機能していない（一番回答が多い）
  - ・ 広報の充実
  - ・ 予算の増額
  - ・ 指定管理者、委員、利用者による話し合い
  - ・ O A機器の設置
  - ・ 利用者間の差別をなくす
  - ・ 利用料の徴収
  - ・ 駐車場の設置
  - ・ 人材の確保
  - ・ 厨房施設の充実
  - ・ 地域の会合等で気軽に使えるようにする
  - ・ お茶の提供
  - ・ 若者を入れる

問8:ボランティア

回答有	未回答	合計
24	36	60
40.0%	60.0%	100%

- ① 未回答が60.0%が多い。  
 ② 回答があった40.0%の内訳は次のとおりである。
- ・ 相談・話し相手である（一番回答が多い）
  - ・ 社会実務アドバイザー
  - ・ 健康チェックができる人
  - ・ 包括支援センター職員
  - ・ 子ども
  - ・ 初めて来た人に声を掛けられる人
  - ・ 閉鎖的、独占化を見直し気軽に来れるムードづくり
  - ・ 必要ない
  - ・ お茶を入れてくれる人
  - ・ 落語家を目指している人
  - ・ ケアマネージャー
  - ・ 送迎ボランティア
  - ・ 管理人の再教育

Ⅲ 行事等の企画に関して

問1-1

：教養講座

1.良好	2.困る	未回答	合計
39	12	12	63
61.9%	19.0%	19.0%	100%

- ① うまくいっているが61.9%で、困っている19.0%である。  
 ② うまくいっているの内訳は次のとおりで、ポジティブ思考（肯定的気質）が働いている。
- ・ 参加人数も多く、活発である
  - ・ 担当者が熱心
  - ・ 定期的の実施
  - ・ ストレッチ体操など自らの体のこと
  - ・ 自主講座と教養講座の区別がない
  - ・ 映画会が好評である
  - ・ 自主的に運営
  - ・ 長く続いている
  - ・ 広報の充実
- ③ 困っていることの内訳は次のとおりで、ネガティブ思考（否定的気質）が働いている。
- ・ 講座の選定が難しい
  - ・ 他の講座と重複している
  - ・ 予算不足で周知困難
  - ・ 講師（指導者）の確保
  - ・ 閉鎖的、独占化を見直し、気軽に来れるムードづくり
  - ・ 内容に偏りがある
  - ・ 参加人数に波がある
  - ・ 予算不足で講師を呼べない
  - ・ 利用者のマナー

問1-2  
:3年限度

1.現状でよい	2.1年で見直	3.2年で見直	4.限度なし	未回答	合計
27	7	9	11	6	60
45.0%	11.7%	15.0%	18.3%	10.0%	100%

- ① 45.0%の運営委員が3年間で限度とした現状のままでよいと回答し、次いで、特に限度を設ける必要がないが18.3%、2年程度で見直しが15.0%、1年程度で見直しが11.7%となっている。
- ② 現状のままでよいの内訳は次のとおりである。
  - ・人気のある講座は期限なしでよい。ただし、3年担当した委員は交代
  - ・指導者の確保と参加者数を考慮
- ③ 特に限度を設ける必要がないの内訳は次のとおりである。
  - ・講師の毎月の指導で向上可能
  - ・要望の強い講座は弾力的に考える
  - ・講座の内容による
- ④ 2年で見直すの内訳は次のとおりである。
  - ・新しい講座の要望がある
  - ・2年で継続について評価する
  - ・3年は長すぎる
  - ・自主講座でよいものがあれば入れる
- ⑤ 1年で見直すの内訳は次のとおりである。
  - ・講座は限定されているので回転よくする
  - ・毎年度見直しが必要
  - ・講座によっては内容が薄くなる

問2-1  
:自主講座

1.現状	2.要改善	未回答	合計
49	9	2	60
81.7%	15.0%	3.3%	100%

- ① 現状どおりとする回答が81.7%と圧倒的に多いが、改善した方がよいも15.0%ある。
- ② 要改善の具体的な理由の内訳は次のとおりである。
  - ・初めての人はグループに入りにくい
  - ・特定のグループが占有している
  - ・講座の紹介
  - ・参加状況の評価する
  - ・既得権の固定化にならないようにする
  - ・10人以下は中止にする
  - ・内容の充実
  - ・前期高齢者に配慮する

問2-2  
:あり方

回答有	未回答	合計
5	55	60
8.3%	91.7%	100%

- ① 未回答が圧倒的に多く91.7%で、回答があった内容は次のとおりである。
  - ・初めての人を入りやすくする配慮
  - ・抽選にする
  - ・やる気がないと何もはじまらない
  - ・オリジナルな講座で競う
  - ・地元の人と季節の工作をする
  - ・初めての人はグループに入りにくい

問3-1  
:行事・イベント

1.ある	2.ない	未回答	合計
38	10	12	60
63.3%	16.7%	20.0%	100%

- ① 教養講座や自主講座以外に何らかの行事・イベントを行っているとの回答が63.3%で過半数を超えている。
- ② 行事・イベントをしたことがないと未回答を合わせると36.7%になる。
- ③ あると答えた内容の主なものは次のとおりである。
  - ・お祭り(一番多い回答)
  - ・演芸大会(四番目)
  - ・大掃除
  - ・手芸、盆栽
  - ・精神講話
  - ・前年死亡者の供養
  - ・敬老会(二番目)
  - ・小学生との交流
  - ・演奏会
  - ・すこやか活動
  - ・防災訓練
  - ・おしゃべり会(三番目)
  - ・もちつき大会
  - ・健康体操
  - ・ミニデイ
  - ・新入会員募集PR

問3-2  
:実施希望

回答有	未回答	合計
13	47	60
21.7%	78.3%	100%

- ① 未回答が圧倒的に多く78.3%で、回答があった21.7%の主な内訳は次のとおりである。
  - ・自主講座発表会
  - ・映画会
  - ・演芸大会
  - ・前期高齢者対象の講座
  - ・パソコン講座
  - ・演奏会
  - ・旅行
  - ・利用者家族の見学会、交流会



#### IV これからの活動について

問1:活性化

1. 広報	2. 標示	3. 友人を誘う	4. 魅力ある講座		
35	16	28	33		
20.8%	9.5%	16.7%	19.6%		
5. 年齢下げ	6. OA機器	7. 時間延長	8. その他	未回答	合計
14	21	15	4	2	168
8.3%	12.5%	8.9%	2.4%	1.2%	100%

- ① 活動内容の広報に回答した委員が一番多く20.8%、次いで魅力ある講座の企画・実施19.6%、以下、近隣の人を誘う16.7%、OA機器の設置12.5%、道案内の表示9.5%、利用時間の延長8.9%、利用者の年齢を下げる8.3%である。
- ② その他の回答は少ないが、その内訳は次のとおりである。
- ・施設名称の変更
  - ・老人会の利用を増やす
  - ・利用者家族の利用を認める

問2:男性の増

回答有	未回答	合計
28	32	60
46.7%	53.3%	100%

- ① 未回答がやや多く53.3%で、回答者は46.7%である。
- ② 回答の主な内訳は次のとおりである。
- ・男性向けの講座、イベントの企画実施（一番多い）
  - ・声かけ、誘う
  - ・広報の充実
  - ・運動部をつくる
  - ・飲酒を認める
  - ・町会、自治会との連携
  - ・ボランティアへの参加
  - ・パソコン教室
  - ・いこいの家を増やす
  - ・駐車場の確保
  - ・現役中から会社中心の生活をしない
- \*男性の利用は多い、少ないと思わないという意見も少数ながら見られた。

問3:名称

回答有	未回答	合計
36	24	60
60.0%	40.0%	100%

- ① 回答ありが60.0%で、未回答が40.0%である。
- ② 回答の主な内容は次のとおりである。
- ・いこいの家（一番多い）
  - ・いこいの家〇〇〇
  - ・ふれあい交流館、ふれあいの家
  - ・いきいきプラザ
  - ・自遊館
  - ・光の家
  - ・町会や地域の名称
  - ・ひらがな、カタカナ表記以外
  - ・希望の家「やすらぎ」
  - ・〇〇〇いこいの家（二番目に多い）
  - ・シニア〇〇〇
  - ・コミュニティセンター
  - ・生きがいプラザ
  - ・みどりの里
  - ・花の名前を入れる
  - ・老人を取れば何でも可
  - ・「老人」の表記は高齢者の自覚しだい
  - ・地域ふれあいサロン

問4:必要な協力

回答有	未回答	合計
37	23	60
61.7%	38.3%	100%

- ① 回答ありが61.7%で、未回答が38.3%である。
- ② 回答の主な内訳は次のとおりである。
- ・行政（一番多い）
  - ・町会、自治会（三番目に多い）
  - ・記入例全て（川崎市・麻生区・市社協・区社協・町会自治会・地域の人・高齢者を抱える家族・高齢者のいるご近所・ボランティア講習修了者・グッドネイバースの方々・地域の学校などとの連携）
  - ・社会福祉協議会
  - ・グッドネイバース
  - ・送迎者
  - ・家族
  - ・地元企業
  - ・地域の人（二番目に多い）
  - ・管理人
  - ・ボランティア
  - ・学校、保育園等
  - ・講座参加者
  - ・こども文化センターとの統合

問5: 生き方  
\* 3つまで○可

1. 趣味	2. 友人関係	3. ボランティア	4. 社会貢献	5. 生涯学習	6. その他	未回答	合計
42	42	35	20	15	3	3	160
26.3%	26.3%	21.9%	12.5%	9.4%	1.9%	1.9%	100%

- ① 趣味と友人関係がそれぞれ26.3%で、以下、ボランティアが21.9%、社会貢献が2.5%、生涯学習が9.4%になっている。
- ② その他の内訳は次のとおりである。
- ・ 居場所づくり
  - ・ 子どもの見守りパトロール
  - ・ 高齢者同士で支えあう活動

問6: 区民会議

回答有	未回答	合計
24	36	60
40.0%	60.0%	100%

- ① 未回答が60%に対して、40%の回答があった。
- ② 回答の主な内容は次のとおりである。
- ・ 区民会議の活動内容が見えない、情報を伝えてほしい（一番多い）
  - ・ 行政主導ではなく、地域に密着した枠組みにしてほしい
  - ・ 区民会議自体知られていない
  - ・ 難しいことを言っても人は動かさない
  - ・ 話し合いだけでは駄目、もっと労力を出してほしい
  - ・ 以前から活動してる団体を知ってほしい、統制はしないでほしい
  - ・ 町会、自治会活動の中に組み込んでいきたい
  - ・ 社協の高齢者委員会など他の組織と情報交換会、合同会議を開く
  - ・ 近所の住民同士が話合う機会をつくってほしい、有志(希望者)をサポートすべき
  - ・ 自ら個別訪問し地域活動のボランティアになってほしい
  - ・ 民生委員などと連携し高齢者を地域に引き出す行動をしてほしい
  - ・ 魅力あるリーダーづくり
  - ・ 若い活力を入れる
  - ・ 子育てサロンの併設
  - ・ 社会福祉関連の拠点を確保してほしい
  - ・ 地域活動する上での予算確保をする方法を教えてほしい
  - ・ 笑いのある人をつくること
  - ・ 百合丘、柿生の活性化
  - ・ 地域の75歳以上の人口と生活状況を知りたい
  - ・ 現状把握と改善点が認識できた時点で提案したい



## 「老人いこいの家」利用者アンケート〈集計表〉

### I あなた自身のことについて

問1:性別

1. 男	2. 女	未回答	合計
105	213	0	318
33.0%	67.0%	0.0%	100%

※数値から(人)は省略してある

- ① 本アンケートには318人から回答があった。なお、男女別では男性が105人(33.0%)、女性が213人(67.0%)である。(参考～平成18年度における全市の「老人いこいの家」利用者の男女比率は、男性が46.0%、女性が54.0%)  
 ② 「老人いこいの家」の利用者は女性が多く、運営委員は男性が多い。

問2:年齢

1. 60～65未満	2. 65～70未満	3. 70～75未満	4. 75～80未満	5. 80～85未満	6. 85以上	未回答	合計
31	66	89	63	44	24	1	318
9.7%	20.8%	28.0%	19.8%	13.8%	7.5%	0.3%	100%

- ① 利用者が一番多い年齢は、70～75歳未満の28.0%で、以下、65～70歳未満の20.8%、75～80歳未満の19.8%である。  
 ② 60歳代前半と85歳以上の利用者は10.0%を下回っており、利用者に占める割合は低い。

問3:家族構成

1. 一人	2. 配偶者と二人	3. 二世帯	4. その他	未回答	合計
49	163	75	27	4	318
15.4%	51.3%	23.6%	8.5%	1.3%	100%

- ① 配偶者と二人暮らしが51.3%と一番多く、次いで二世帯が23.6%、一人暮らしが15.4%である。  
 ② その他は8.5%で、主な内訳は次のとおりである。  
 ・夫婦に未婚の子(一番多い)  
 ・本人に母

問4:住所

1. 区内	2. 区外	未回答	合計
299	17	2	318
94.0%	5.3%	0.6%	100%

- ① 区内が圧倒的に多く94.0%である。  
 ② 区外は5.3%で、多摩区や町田市など近隣地区からの回答も見られた。

問5:他の活動

1. 参加	2. 不参加	未回答	合計
197	107	14	318
61.9%	33.6%	4.4%	100%

- ① 何らかの活動に参加しているとの回答が61.9%で、参加していないは33.6%である。  
 ② 参加している活動の主な内訳は次のとおりである。  
 ・趣味・教養・娯楽(圧倒的に多い)  
 このうち、上位の回答は、卓球など運動に関するもの、体操など健康に関するもの、コーラスなど音楽に関するもの、絵画や詩など文化・芸術に関するもの、囲碁などゲームに関するものである。  
 ・ボランティア活動  
 ・地域の公的活動(町会・自治会活動等)

問6:関心

1. 健康	2. 家族	3. 年金	4. 運動	5. 趣味	6. その他	未回答	合計
279	26	33	19	30	10	3	400
69.8%	6.5%	8.3%	4.8%	7.5%	2.5%	0.8%	100%

- ① 一番の関心ごとは、健康に関すること69.8%である。  
 ② 二番目以下の回答はいずれも10.0%未満で、年金8.3%、趣味7.5%、家族6.5%、運動4.8%である。  
 ③ その他の回答は2.5%で少ないが、その内訳は税金、踊り、カラオケ、旅行、病気、他人との和である。

## II 利用について

問1:きっかけ

1. 人づて	2. 広報誌等	3. 友人の誘い	4. その他	未回答	合計
84	40	128	54	12	318
26.4%	12.6%	40.3%	17.0%	3.8%	100%

- ① 友人の誘いが一番多く40.3%、次いで人づての26.4%である。  
 ② その他は17.0%で、主な内訳は次のとおりである。  
 ・社協・民生委員等から（一番多い） ・近所だから  
 ・講座等への参加 ・パンフレット・チラシ  
 ・配偶者や友人・知人からの紹介

問2:方法

1. 徒歩	2. 自転車等	3. その他	未回答	合計
200	26	86	6	318
62.9%	8.2%	27.0%	1.9%	100%

(時間)	↓	↓	↓	↓	
5分未満	35 (17.5%)	6 (23.1%)	9 (10.5%)	50 (15.7%)	
5～10分未満	54 (27.0%)	8 (30.1%)	10 (11.6%)	72 (22.6%)	
10～15分未満	52 (26.0%)	4 (15.4%)	16 (18.6%)	72 (22.6%)	
15～20分未満	19 (9.5%)	2 (7.7%)	10 (11.6%)	31 (9.7%)	* 時間不明
20～30分未満	21 (10.5%)	1 (3.8%)	11 (12.8%)	33 (10.4%)	2. 自転車～2
30分以上	19 (9.5%)	3 (11.5%)	19 (22.1%)	41 (12.9%)	3. その他～11

- ① 徒歩が一番多く62.9%で、そのうち70.5%が徒歩15分圏内である。次いでその他が27.0%、自転車が8.2%である。  
 ② その他の主な内訳は次のとおりである。  
 ・バス（一番多い） \*20分未満60.0%、20分以上40.0%  
 ・家族などが送迎する車（二番目に多い） \*20分未満95.8%、20分以上4.2%  
 ・電車（三番目に多い） \*20分未満45.5%、20分以上54.5%  
 ・少数回答として、バスと電車の乗り継ぎ、介護タクシーがあった。  
 ③ また、方法に関係なく、所要時間のみで見ると15分未満が61.0%を占めている。

問3:期間

1. 6月未満	2. 6月以上	3. 1年以上	4. 3年以上	5. 5年以上	未回答	合計
21	9	62	74	147	5	318
6.6%	2.8%	19.5%	23.3%	46.2%	1.6%	100%

- ① 5年以上が46.2%で一番多く、次いで3年以上の23.3%である。  
 ② 1年未満の利用者は9.4%と低く、比較的長期にわたり慣れ親しんでいる利用者が多い。

問4:回数

1. 週	2. 月	3. 毎日	未回答	合計
163	146	2	7	318
51.3%	45.9%	0.6%	2.2%	100%

(回数)	↓	↓
1回	64 (39.2%)	19 (13.0%)
2回	43 (26.4%)	53 (36.3%)
3回	35 (21.5%)	27 (18.5%)
4回以上	21 (12.9%)	47 (32.2%)

- ① 週の利用が51.3%で一番多い。内訳としては、週1回の利用が多く、2回、3回と続く、4回以上の利用者は21人いる。  
 ② 月の利用は45.9%で、内訳としては、月2回の利用が多く、3回、1回と続く、4回以上が47人いるが、これは週と月の回数を混同したのではないかと思われる。この47人を週1回に該当するとすれば週1回の利用者は増えることになる。



問5: 利用法

1. 個人	2. グループ	3. 1+2	未回答	合計
53	217	29	19	318
16.7%	68.2%	9.1%	6.0%	100%

- ① グループ利用が圧倒的に多く68.2%で、個人利用は16.7%である。  
 ② 個人利用とグループ利用の両方は9.1%と低く、個人利用とグループ利用を兼ねている利用者も少ない。

問6: 過ごし方

\*3つまで○可

1. 談話	2. 読書	3. 休憩	4. 囲碁	5. 将棋	6. 風呂	
59	5	14	64	5	27	
12.1%	1.0%	2.9%	13.1%	1.0%	5.5%	
7. 講座	8. ミニディ	9. おしゃべり	10. リハビリ	11. その他	未回答	合計
80	31	25	20	127	30	487
16.4%	6.4%	5.1%	4.1%	26.1%	6.2%	100%

- ① その他の回答が一番多く26.1%であるが、その内訳は多種多様である。  
 ② 1~10の質問項目で見ると、講座への参加が一番多く16.4%、次いで囲碁13.1%、談話12.1%である。  
 ③ 介護予防関係のミニディやリハビリは、それぞれ6.4%、4.1%で利用参加は少ない状況にある。  
 ④ その他の主な内訳は次のとおりである。  
 ・趣味・教養・娯楽（圧倒的に多い）  
 このうち、上位の回答は、コーラスなど音楽に関するもの、体操など健康に関するもの、卓球など運動に関するものである。  
 ・ふれあい喫茶  
 ・ボランティア活動

問7: 感想

1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	未回答	合計
154	127	25	2	10	318
48.4%	39.9%	7.9%	0.6%	3.1%	100%

\*1~4→別記あり

- ① 満足、やや満足の圧倒的に多く88.3%である。その理由は多種多様であり、主な内訳を回答の多い順に並べると次のとおりである。  
 ・楽しく過ごせる（1番）  
 ・近い（3番）  
 ・管理人がよい  
 ・環境・雰囲気がよい  
 ・趣味の活動ができる  
 ・ミニディの料理がよい  
 ・安いで、清潔で、気持ちよく過ごせる（2番）  
 ・仲間、友人との交流ができる（4番）  
 ・気楽で、自由に過ごせる  
 ・設備がよい  
 ・健康によい  
 ② 不満、やや不満は8.5%と少ないが、その主な内訳は次のとおりである。  
 ・施設面積が狭い、増築した方がよい  
 ・卓球室が狭く、すべる  
 ・駐車場がない  
 ・茶葉、石鹸がなくなった  
 ・月間予定表の回覧、掲示がない  
 ・管理人の応接  
 ・平日開館時間の延長、休日・祭日開館  
 ・ホールが狭い、室内が暗い  
 ・施設の場所、立地が不便  
 ・利用者にかたよりのある

問8: 利用の増

\*3つまで○可

1. 広報	2. 標示	3. 友人を誘う	4. 講座	5. 年齢下げ	
105	32	74	117	23	
17.5%	5.3%	12.3%	19.5%	3.8%	
6. OA機器	7. 情報キャッチ	8. 延長	9. その他	未回答	合計
50	56	48	51	45	601
8.3%	9.3%	8.0%	8.5%	7.5%	100%

- ① 魅力ある講座の設定が19.5%で一番多く、次いで活動内容の広報17.5%、友人を誘う12.3%、高齢者情報のキャッチ9.3%、OA機器の設置8.3%である。  
 ② その他8.5%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。  
 ・送迎する（1番）  
 ・平日開館時間延長（3番）  
 ・卓球をする  
 ・講座の充実  
 ・尿漏れパッドの廃棄を可能にする  
 ・駐車場を設ける（2番）  
 ・話し相手ボランティア（4番）  
 ・便のよいところに建てる  
 ・キーボードの設置

問9: 男性の増

回答有	未回答	合計
83	235	318
26.1%	73.9%	100%

- ① 未回答が圧倒的に多く73.9%である。  
 ② 回答があった26.1%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。
- ・友人を誘う（1番）
  - ・魅力的な講座の企画・実施（2番）
  - ・趣味のサークル活動の充実（3番）
  - ・広報の充実（4番）
  - ・男性アンケートの実施
  - ・見学会の実施
  - ・男性を優遇する
  - ・映画、ビデオの上映
  - ・行事、大会の実施
- \*現状のままではよいとの回答もあった

問10: 名称

回答有	未回答	合計
110	208	318
34.6%	65.4%	100%

- ① 未回答が多く65.4%である。  
 ② 回答があった34.6%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。
- ・いこいの家（老人を取る）（1番～圧倒的に多い）
  - ・老人をやめる（2番）
  - ・健康ハウス
  - ・コミュニティ〇〇
  - ・シニア〇〇（3番）
  - ・〇〇センター
  - ・いこいのセンター
  - ・シルバー〇〇
  - ・魅力的な名前
  - ・ホットステーション

Ⅲ 今後の活動について

問1: 場や団体

回答有	未回答	合計
82	236	318
25.8%	74.2%	100%

- ① 未回答が圧倒的に多く74.2%である。  
 ② 回答があった25.8%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。
- ・少人数で集まれる場（1番）
  - ・趣味、サークル（2番）
  - ・野外のグラウンドなど（3番）
  - ・サロン、自由に話せる場（4番）
  - ・スポーツができる場所
  - ・音楽ができる場所
  - ・駅に近い
- \*現状のままではよいとの回答もあった

問2: あり方

\*3つまで〇可

1. 現状どおり	2. 増改築	3. 年中無休	4. 夜間利用		
106	46	72	29		
20.9%	9.1%	14.2%	5.7%		
5. 施設増	6. 他施設増	7. その他	未回答	合計	
55	104	43	52	507	
10.8%	20.5%	8.5%	10.3%	100%	

- ① 現状どおりが一番多く20.9%である。  
 ② 2～7の改善の回答のうち、高齢者が利用できる施設を増やすが一番多く20.5%、次いで休日・祝日開館による年中無休14.2%、施設の増（中学校区の広いところは新築する）10.8%、地域活動可能なように増築する9.1%である。  
 ③ その他8.5%の主な内訳を回答順に並べると次のとおりである。
- ・駐車場をつくる（1番）
  - ・送迎バスが必要（2番）
  - ・サロンの自由に使いたい（3番）
  - ・キーボードの設置（4番）
  - ・施設を近くに設置する
  - ・卓球台の増設
  - ・尿漏れパッドの廃棄を可能にする

問3: 生き方

\*3つまで〇可

1. 趣味	2. 仲間	3. 地域活動	4. 社会貢献	5. 生涯学習	6. その他	未回答	合計
207	208	92	45	85	8	34	679
30.5%	30.6%	13.5%	6.6%	12.5%	1.2%	5.0%	100%

- ① 仲間のいる生き方が30.6%で一番多く、わずかな差で趣味を持つが30.5%、以下地域活動が13.5%、生涯学習が12.5%である。  
 ② その他は1.2%と少ないが、主な内訳は次のとおりである。
- ・社会の変化にのれるようなこと
  - ・笑顔で皆に好かれる老人
  - ・自分からやりたいことを口に出す
  - ・障害があっても自分から参加する





## 第3章 「区民フォーラム」について

### (1) 目的

これまでの区民会議の審議結果及び地域での取組みの状況について、その成果・問題点などを検証しつつ、区民に対して経過報告を行いました。

併せて、区民会議の趣旨・役割などを事例の中から具体的に説明し、住民の発意と工夫を大事にした問題解決に向けて、区民会議のめざす「心が響きあう地域づくり」へのより一層の区民参加を呼びかけました。

### (2) 内容

- 日時・場所 — 平成20年2月23日(土) 13:30～ 麻生区役所第1・第2会議室
- 参加者数 — 150名

#### 第1部：麻生区区民会議・経過報告

- 区民会議審議報告 (企画部会長 石田厚生)
- 「農」の専門部会報告 (部会長 尾中謙治)
- 「高齢者」専門部会報告 (部会長 菅原陽子)

これまでの区民会議の審議結果について、その成果・問題点などを検証しつつ、区民に対して経過報告を行いました。併せて区民会議がめざしている「心が響きあう地域づくり」とは何かを参加者に伝えました。

#### 第2部：地域での取組事例報告

- 虹ヶ丘コミュニティルーム (事務局長 久野佳子)
- 多摩美町会 (町会長 辻 實)
- 新ゆりグリーンタウン連絡協議会 (けやき自治会事務局長 井上喜一)

地域での取組みの状況について、その成果・問題点などを検証しつつ、区民に対して報告を行いました。また取組事例の報告を通して、紹介する取組が、区民会議のめざす「心が響きあう地域づくり」につながることを示し、併せて取組の成果や問題点を共有しあいました。

#### 第3部：全体集会

第2部の地域での取組事例報告を発端としながら、参加者との対話・意見交換へと発展させ、会場全体でさらに地域の取組の成果や問題点を共有し合うことにしました。このことによって、「心が響きあう地域づくり」をテーマとした住民の発意と工夫を大事にした問題解決に向けてのより一層の区民参加を呼びかけました。

### (3) 成果と反省

他の行事との重なりがあったにもかかわらず、予定した150名の参加者を迎えることができ、会場から寄せられた25件の意見書の中から15名の方々にご発言をいただきました。

また、アンケート等で参加者から「区民フォーラム」並びに「区民会議」について、概ね理解したとの評価のご意見をいただきました。初めての試みで残された課題もあったものの、先ずは当初の意図を達成することができたと実行委員会では総括しています。

以下、49名の参加者アンケートの回答や実行委員の感想等から、「成果と反省」に関わる特徴的な事柄について記します。

① 「区民フォーラム」は、区民に区民会議の存在と活動の状況について理解を深めていただき、さらに諸課題の解決に向けて、広く直接的に意見交流をしていただく機会として大きな意味を持っており、2月に開催できたことは大変意義深いことであります。

しかし、区民会議の第1期という条件下であったがため試行錯誤が多く、期の終盤での開催になってしまったことは不本意なことでありますので、第2期以降にあつては、より区民の意向を反映させ、かつ批判を受けて区民会議を活発化させるためにも、期内2回程度の機会設定が望ましいと考えられます。

② 今回の「区民フォーラム」の運営については、初めての試みであったので実行委員会等での議論にかなりの時間を費やしましたが、「心が響きあう地域づくり」のテーマに添って、「各地域(町会・自治会等)や団体等が取り組んでいる実践活動(事例)を報告していただくことを中心に、意見交流を図って実践の輪を広める」ことにしました。

この観点から、できるだけ大勢の参加者から広く発言を求めるよう意図しましたので、発表者・発言者の持ち時間が少なくなることとなり、不満足感を与えてしまった状況もあったと思われます。時間の都合上致し方なかったとはいえ、反省すべき事項であり、次回には運営上一考する必要があります。

③ 「区民フォーラム」を開催するに当たっては、いろいろなハードルを越える必要がありました。その最大は「区民フォーラム開催を区民にどうPRし、どうしたら予定の150人を集められるか」ということでした。広報が重要な鍵を握るという認識で、チラシやポスターの配布・掲示、市の広報誌やタウン誌への掲載などを戦術としましたが、諸団体や区民の方々には本当にお世話になりました。とりわけ、町会連合会の各町会長さん及び会員の皆さんにいただいたご協力にはありがたく感謝いたします。

さらにありがたかったことは、区民会議の事業を進めるに当たって、町会連合会の援助協力をいただかなくてはならない場面が多々あることを体験的に知りましたが、今回のポスター貼りなどのお願いを通して、区民会議と町会との間にパイプが繋がったことであり、大変大きな収穫であったと考えます。区民会議の今後の発展に向けて大きな成果とさせていただきます。

④ 「区民フォーラム」に参加することにより「心が響きあう地域づくり」のテーマ理解ができて地域活動の情報が得られたと評価する方、報告や意見交換の仕方の工夫など運営上の改善を求める方、新たな課題を提起される方などがおり、区民の皆さんが「住みよい麻生の明日の実現」を目指して、「今、区民として何をすべきか」を共に考え合うよい機会となりました。



## 「区民フォーラム」参加者アンケート〈集計表〉

回収数－49

**(1) 本日の会合を知ったのは？（いくつでも○可）**

1. 知人	2. 市政だより 区版	3. 区民会議 ニュース	4. 新聞	5. ポスター チラシ	6. その他	未回答	合計
22	19	10	0	13	6	0	70
31.4%	27.1%	14.3%	0.0%	18.6%	8.6%	0.0%	100%

**6. その他(具体的に)**

自分の地域が発表したので	町内回覧板
区民会議を傍聴して	自治会長より
マイタウン	地域教育会議

**(2) 区民会議の取組「心が響きあう地域づくり」についての理解は？**

1. 理解した	2. まあ理解 した	3. 理解できな かった	未回答	合計
18	27	1	3	49
36.7%	55.1%	2.0%	6.1%	100%

※3の補足意見－今回傍聴して地域として何を目標しているかわからなかった

**(3) 第2部、第3部で参考になった事例は？（いくつでも○可）**

1. 虹ヶ丘	2. 多摩美	3. 新ゆり	4. 会場報告	未回答	合計
27	9	9	3	16	64
42.2%	14.1%	14.1%	4.7%	25.0%	100%

**4. 会場報告(具体的に)**

防犯への取組	東柿生小学校区防犯パトロール隊
地産地消	ご近所のつながり
自然エネルギー・環境問題	

**※参考になった理由**

- 虹ヶ丘－学年単位のコミュニティづくり
- 虹ヶ丘－住民相互の交流のためのイベント事業について
- 虹ヶ丘－ボランティア活動の仕方
- 虹ヶ丘－運営も含めて地域の人々とのふれあいのためニュースを配布していること
- 虹ヶ丘－情報を住民に知らせるため広報紙の発行
- 虹ヶ丘－コミュニティの型
- 虹ヶ丘－これからの課題の参考になった
- 多摩美－誰もが必要なのになかなかつけない
- 新ゆり－複数回のイベントにより地域住民のコミュニケーション向上につなげている点
- 虹ヶ丘、多摩美、新ゆり－ねばり強い活動
- 虹ヶ丘、多摩美、新ゆり－①熱心である ②担当者が積極的
- 東柿生小学校区防犯パトロール隊－ボランティアが必要、心に響いた
- 地産地消－農業を皆で守らないといけない

**(4) 「心が響きあう地域づくり」を進めていると思うか？**

1. 進めている	2. 進めよう としている	3. 進めてい ない	未回答	合計
28	9	7	5	49
57.1%	18.4%	14.3%	10.2%	100%

(5)－① (4)の回答1及び2→取組の切口は？

1. 防犯	2. 防災	3. 環境美化	4. 高齢者支援	5. 子育て支援	6. その他	未回答	合計
27	20	20	19	10	5	0	101
26.7%	19.8%	19.8%	18.8%	9.9%	5.0%	0.0%	100%

6. その他(具体的に)

花火大会、もちつき大会、夏祭りを実施

高齢者を対象とした①歌う会 ②健康体操の会を実施

自分の得意分野(朗詠・演劇、朗読の会など)

ご近所のつながり

防災について中学生と考える

各種イベント開催(自治会主催)

住民、交流の機会をどう作っていくか

交通安全

(5)－② ①の取組で上手くいっていること

住民の自由意志で参加している

心豊かなまちづくりをする方策

まち並み協定づくりに子どもたちが参加している

防犯・見守りパトロール

防犯と環境美化が相互に助け合って、安心・安全なまちになっている

(5)－② ①の取組で困っていること

2、3年で成果の見出せないテーマを掲げる→逃げ口上は止められない、具体的課題を解決する方向へ進むべき

特定の方々の力による運営で、一般地域民を巻き込んでいない

参加人員の確保

多忙で集まりにくい

援助とプライバシーの兼ね合い

参加者の動員の促進法は何かよいのか

いこいの家への送迎・買物などへのバス便の確保をいかに実現していけるか

(6) 「区民会議」や本日の運営への意見

1. 記入有	2. 記入無	合計
20	29	49
40.8%	59.2%	100%

※回答有の内容

テリトリーの範囲が不明

事例の報告会でよいと思うので、どんどん地域活動を伝えてほしい

報告者の時間がない中で、この点についてコントロールが必要

運営は大変だが、ある程度テーマごとに分類して報告してはどうか

初めて参加した、地域のために勉強していく

区民会議をはじめて聞いた、今後積極的に聞きに来たい、来年を楽しみ

限られた時間内ということはわかるが、報告よりは自由闊達な意見交換の場としてほしい

区民に内容が見えるよう区民会議ニュースは全世界配布してほしい

町会の取組報告は今日のフォーラムになじまないのではないか、会館自体が地域の交流に大いに役立つのはよいこととして

管理組合運営の参考例となる説明が聞きたい

第3部の意見交換がよかった。ただし、活動している人が集まった場と見受けられたので、新しい人に広げていくことがこれからの課題ではないか

楽しくない、時期を選んで庁舎中庭でオープンにやるとか、もう少し知恵を出したい



区民会議の課題として、区民会議で取り組んでいる以外のテーマがいくつか出ていた、そのフォローも検討してほしい

分科会形式で話し合えればよい

もう少し時間をかけて内容を聞ければよかった

初めての情報が得られた

時間が長く伸びると疲れる

初めての参加でよい経験となった

発表者の持ち時間が少ない

各担当者が敏捷で素晴らしい、市民館が近いし熱心な地区なので、ほとんど毎日来ている

(7) あなた自身のことについて

(7) - ① 住所

1. 区内	2. 区外	未回答	合計
45	3	1	49
91.8%	6.1%	2.0%	100%

1. 区内(具体的に)

細山	9	栗木	2
白山	5	下麻生	2
千代ヶ丘	4	白鳥	2
片平	3	王禅寺東	1
上麻生	3	早野	1
栗木台	3	向原	1
王禅寺	2	百合丘	1
岡上	2	未記入	2
金程	2		

2. 区外(具体的に)

高津区	1	横浜市港南区	1
稲城市	1		

(7) - ② 年齢

1. 20歳未満	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代		
0	0	2	5		
0.0%	0.0%	4.1%	10.2%		
5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳代	8. 80歳以上	未回答	合計
6	17	16	2	1	49
12.2%	34.7%	32.7%	4.1%	2.0%	100%

(7) - ③ 性別

1. 男	2. 女	未回答	合計
36	9	4	49
73.5%	18.4%	8.2%	100%

(7) - ④ 名前の記入

1. 記入有	2. 記入無	合計
15	34	49
30.6%	69.4%	100%

※自由記入—1件

いこいの家のアンケート結果を生かして地域の和を広げられるようにしてほしい、高齢者支援の一環として、老人クラブにも60歳以上ならどなたでも参加できるので、心が響きあう地域づくりに尽力してほしい

## 第4章 第2期以降の麻生区区民会議に向けて

### ～第1期区民会議委員の意見・感想等～

2年間の取組を通じて、第1期区民会議委員から主に次のような意見が出されました。  
(各委員からの意見・感想等については次ページ以降を参照)

#### ① 会議の運営・進め方

##### ■ 専門部会の設置

└ 企画部会や課題ごとの専門部会の設置及び事前議論により、年4回開催の本会議の効果的運営ができた。

##### ■ 委員主体の運営

└ 委員主導型会議運営は評価できるが、反面、進行の遅れや議論の繰り返しが見られた。

##### ■ 会議内容

└ 報告時間に比べ審議時間が短かった。審議時間をもっと多くとり、活発な議論の場になるとよかった。

##### ■ 会議時間・回数

└ 1回当たりの会議時間が2時間～3時間は、長短それぞれの意見があった。複数の専門部会に所属する委員にとって会議回数が多いと感じられており、時間負担の軽減は今後の課題と思われる。

#### ② 課題の選定・絞り方

##### ■ 身近な課題の選定

└ 事例1は身近で分かり易く緊急性のあるタイムリーな選定だった。事例2・事例3はテーマ設定が大きすぎ絞り込んで具体性をとの指摘とアンケート調査を評価する意見がある。

##### ■ 委員、区民からの課題集約

└ 委員全員からの意見聴取、区民からのインターネットや提案箱を通じた提案により課題を集約し、多くの課題が見出された。

#### ③ 第2期への期待

##### ■ 継続性を配慮した課題選定・取組

└ 今期のテーマ「心が響きあう地域づくり」は「地域課題を解決し得る地域コミュニティづくり」の土台に据えられるもので、継続的な取組として配慮していただきたい。

##### ■ 今期の審議・調査・取組の検証

└ 第1期末解決課題の継続的取組とその成果を検証していただき、その上で、第2期にふさわしい、特色ある課題に取り組んでいただきたい。



### ■ 「区民フォーラム」の実施

「区民フォーラム」は、区民と区民会議委員の意見交流の場として、また問題解決の糸口ともなるため今後とも継続的に実施していただきたい。また、「区民フォーラム」は、区民会議の存在意義をPRする有効な手法の一つでもあります。

## ④ その他

### ■ 広範な年齢層による構成

年齢階層によりコミュニティ像は異なるので、幅広い年齢層により委員を構成する。

### ■ シニア世代によるサポート

経験豊富なシニア世代がサポート役を引き受けることにより、若年世代、現役世代の市民参加の場への円滑な参加の促進を図る。

## ● 各委員からの意見・感想等 ●

### ① 会議の運営・進め方について

#### 良かった点

- 全体的に良かったと思う。
- 企画部会を作ってそこに任せたのは良かった。20名がバラバラに年4回だけの会議だけではまもらなかった。
- 企画部会での事前議論が、本会議の円滑な進行に役立っていた。反面、企画部会委員の負担が多かったのでは。
- 企画部会は、委員主導型会議の実効性と円滑運営に概して資したのではないか。
- 課題ごとの専門部会を立ち上げて調査・検討を実施したのはよかったと思う。
- 本会議の開催回数が年4回、会議時間が2時間～2時間半は妥当。
- 市民(委員)が主体的に運営できたことは評価したい。
- 区民との接点、アピールの場として「区民フォーラム」を開催したことは良かった。
- 2月実施の「区民フォーラム」には、多くの方の参加があり内容も充実していた。

#### 改善すべき点

- 平均的な運営・進め方であった。
- 会議の時間が短く、十分な協議・討議ができなかった。
- 会議の時間を2時間半～3時間くらいにし、その間15分くらいのティータイムを取り、事務局・委員・参与・傍聴者との交流の時間とする。
- 企画部会・専門部会の開催回数が多かった。会議時間が3～4時間に亘ることには閉口した。会議時間短縮への配慮が司会者、討論者双方に必要。
- ひとりひとりの意見を述べる時間が長すぎて、進行が遅れ、同じ内容の繰り返しが前半続いたよ

うに思われた。

- 企画部会で検討した内容が、他の委員には分かりにくかった。
- 専門部会に外国人委員の意見が反映できるような工夫があるともっと良かった。
- 2～3の課題を取り上げ、早い時期からそれぞれの専門部会を立ち上げて検討を開始できたら良かったと思う。
- 区民会議及び企画部会・フォーラム実行委員会・高齢者部会の委員として出席回数が2年間で約60回となり、この間、自己研鑽時間を合わせると負担が想像以上に多大となった。課題の専門性を考慮して、専任事務局を設置する等個人の時間負担の軽減を実施しなければ、会議の持続可能性に問題が発生するのではないか。
- 合意形成を図る努力が必要。専門部会の会議が多すぎたので、もっと要領よく運営する努力が必要。
- 年4回の会議回数ではあまり成果は得られない。私自身の中でも未完成な、やり残したという思いが多く残っている。
- もう少し元気な意見交換の場になると良かった。
- 審議時間が報告時間に比し実質的に短く、審議が盛り上がったとは言えぬ実態は種々事情あるはずで、検証すべき。
- 解決策についての深掘りとその実現のための提言については、本会議でももう少し検討されるべきだったと思う。
- 役割分担・発言者偏在への対策を講ずる必要がある。
- 区民会議としての事務局を設置し、調査・広報等が十分にできるようにする。
- 一部会議運営の改善が必要。(ロバーツ・ルールなどの基礎学習)
- 初めてこうした会議に参加した公募委員にとっては、戸惑いがあったのではないかと。

## ② 第1期の課題の選定・絞り方について

### 良かった点

- 全体的には良かった。
- 身近に感じ、誰でも入り込めるテーマは良かったと思う。
- 多様な課題が委員から提案されたが、地域性を越えた一般的などこの地域でも通用するのも見受けられたので、麻生区としての課題の絞り込みをしたのは良かったと思う。
- 「区民フォーラム」経過報告の通り、課題収集・選定過程には概ねベストな配慮がなされたと思う。後は地域での理解と実践取組の拡大。
- 「心が響きあう地域づくり」というテーマとの整合性からの課題選定であり、よかったと思う。
- 第1の事例を「こどもの見守り」～地域のつながり「あいさつ」がはじまり～として区民の意識化を図ったことは、身近で分かりやすく、しかも緊急性のあるタイムリーな選定であったと確信する。
- 農業の問題をテーマにしたのは一部無理があったが、学校農園のアンケート調査は市内でも初めての試みで有意義であったと思う。
- 「食育を含む地産地消」に関する取組は麻生の地域的特性を形成・持続する意味合いでも、今後





の方策の継続的検討に大きな期待が寄せられる。

- 「老人いこいの家」のアンケート調査は問題点の顕在化、その考察を基にした行政施策への諸提案ができることには極めて意義深いものがある。
- 委員全員の意見と区民にはインターネットや提案箱を通して求めたことは良かった。
- 委員、一般区民からの課題集約の方法は間違いではなかった。

### 改善すべき点

- 区民会議発足期という事情もあり十分に区民の意向をくみ上げ得なかった感は否めない。
- 初年度ゆえの運営の戸惑いがあったこととは思うが、いくつかの課題が、いつ立ち上がるのか、その見通しがあるのか、無いのかを早い段階で提示できれば、各委員の専門部会加入の有無の判断に役立ったのではないかと。
- 選定された課題を批判するものではないが、課題の選定過程の透明性というか、説明がもう少しあってもよかった。
- 要点を絞きれず、ダラダラした議論になってしまった。
- 選定後の課題については、提出された他の課題と再調整して、関連する課題があれば組み入れて少しでも多くの課題を検討できたらよかったと思う。
- 心が響きあう地域づくりという課題は少し抽象的すぎた。農の部会では委員の意見がバラバラで目覚ましい成果を上げることができなかった。
- テーマ設定が大きすぎたのではないかと。単に高齢者と言わずもっと絞り込んだ方が具体性が出ると思う。「農」についても同様。
- 2つの専門部会に取り組み、問題点等を話し合ったが、私の所属部会は中途半端で終わったのが残念。ただ、この2つの部会で時間的には精一杯だったと思う。
- 区民会議として具体的な提言ができたのは高齢者部会だけだったとも言える。会議への期待・思い込みが強すぎて課題が大きくなると共に、提言可能性の自己評価が甘かったのではなからうか。
- 区民へのアピールが不足していた。広報の手法をもっと考えていくべき。
- 区づくり白書の精査をスタート地点とすべきだった。

## ③ 第2期への期待

### 運営・進め方

- 委員全員が発言するような活発な会議にしてほしい。
- 意見は簡潔にそして会をスムーズに進めてもらいたい。
- 外国人委員が専門部会に参加するか、意見が反映できるようにしてほしい。
- 区民会議が、実質「区民の、区民による、区民のための会議」として機能し、定着するよう、区民との関わりを一段と親密なものにする努力を継続してほしい。
- 第2期委員による特色ある活動を期待してやまない。
- 団体間の連携・協力による縦割り活動が是正され、地域のネットワークが構築されることを期待する。
- 区民への啓発・周知、関係機関への提言などをさらに推し進めてほしい。

- 全委員による忌憚のないコミュニケーションの早期実施、且つ回数の増加。
- 市民（委員）側の事務局機能の強化。
- 活動には必ず作業が伴うことを体験的に知る必要がある。（例：印刷作業など）
- 今期のテーマ「心が響きあう地域づくり」の趣旨は、防犯・防災・環境美化などの地域課題を解決する為には、「住民間の心の繋がり」をベースにした住民の発意や自主的な取組を尊重することで、その実効性を高めようと言うことであり、換言すれば「地域課題を解決し得る地域コミュニティづくり」ということになるだろう。本テーマは種々の課題解決に於いて土台に据えられるものと思うが、その成果実現には継続しての取組が不可欠だろう。従い次期会議にても本テーマの趣旨、取組には引き続き配慮されることを期待したい。

### 課題の選定・取組

- 具体的な課題をなるべく早く決めて取り組んでもらいたい。
- 委員所属団体から積極的な課題提案が出されることを期待する。
- 次回委員には新たな視点で取り組んでほしい。
- 住民の期待に応えるために、課題の選定は着実に具体的な提言ができる可能性の高いものを選定してほしい。（課題は小さくても良い）。また、全員が部会の委員となって活動してもらいたい。（課題が小さいと参加しやすいと思う）。
- 第1期取組課題の未解決部分に引き続き取り組んでほしい。また、第2期にふさわしい課題に取り組めるともっと良い。
- 未検討の課題や、検討しきれなかった課題の継続検討をお願いしたい。
- 次期区民会議を拘束するつもりはないが、継続性を配慮して、今期の課題テーマ及び3事例を次期にても引継ぎ、更に審議・調査・取組を進め、その成果を検証の上、その後の取り扱いを決めてほしい。
- 高齢者部会の残ってしまった課題を引き継いでほしい。
- 農、高齢者ともにぜひ発展的に継続させてほしい。
- 発展する「新百合ヶ丘」駅周辺のまちづくりについて議論を深め、何らかの提言などが得られればタイムリーな課題設定となるのではないかと。
- 日常的な広報活動の充実と継続的なフォーラムの開催（年1度）をしてほしい。
- 「協働推進事業の在り方」及び「区民会議の関わり方・役割の果たし方」等について検討してほしい。
- 第1期での提言や要請などのその後の検証をやってもらいたい。
- PRの最も有効な機会はフォーラムの実施であったので、2～3回の簡便なフォーラム実施を提言したい。
- 今回のテーマの取組事例3件の取り扱いについて、本テーマを具体化する為の切り口・事例を今後新たに加えるかは次期会議に委ねるも、取り敢えず今期の3事例はそれぞれの引継事項に沿って、次期においても審議・調査及び実践に繋げる取組を継続し、成果を実現して頂きたい。（事例1は区民フォーラム報告書p6及び44/45参照）いずれ時期をみて成果などを検証した上で、その後の取り扱いを決めて頂ければと思う。
- 今期会議での課題選定基準など諸ルールの取り扱いについては、特に問題・異議がなければ継続

とし、将来必要あれば見直しをしたら良いと思う。

- 「地元農産物を通じての地域づくり」に関して、①食育を通じての交流：王禅寺小学校（モデル校）と地域との交流の推進と他の小学校への広がり、②市場・直売所を通じての交流：セレスモスや近隣直売所を住民の交流の場とする取組（例：マップづくり）、③市民農園、援農を通じての交流：行政、農協、農家によるニーズに応じた無理のない取組、を踏まえて取り組んで欲しい。

#### ④ その他

- 区民が近所同士気楽に話せる場を増す施策を実施してもらいたい。
- 気軽に井戸端会議ができる場所を各町会につくり、ご近所同士お互いに心を開けるようにすることが必要である。
- 経験を積んだ今期委員をある程度残して課題を継続する体制作りが必要である。
- 区民会議と町会連合会との連携パイプができたことは今後にとって大収穫であった。
- 人それぞれ、例えば年齢階層によって「理想とするコミュニティ」像は異なるのではないか。それゆえに区民会議のメンバーが、より幅広い年齢層になることも考える必要がある。
- 区民会議の目的・役割への理解・認識に区民会議内外での共有が進めば、地域課題解決への「ご近所の底力」発揮がより一層促進される。
- 第1期ということもあり、区民会議の在り方が理解しにくかった。そのため、自分がどのようにかかわるべきか、自分に何ができるのか模索しながらの参加となってしまう、課題検討に深く取り組みなかった事がとても残念である。
- 議員との棲み分け、町連等との連携等の問題がある。
- テーマの設定等について、今後、回を重ねるごとに難しくなると思う。
- 事務局の苦勞が多くなることが想像できる。
- 市民参加の場への若い世代の参加度は残念ながら高いとは言えないが、区民会議へは複数名の方が参加された。多忙な中での参加に敬意を表したい。現役世代の方が参加して良かったと思われるよう、また、参加しやすい工夫など経験あるシニア世代は積極的にサポート役を引き受けたいものである。



## あとがき

- 1期2年の任期を終えるにあたり、感慨深いものがあります。  
ジョージ・エリオットという英国の作家が「言葉は翼を持つが、思うところには飛ばない」と言っています。この2年間、自分の考えや気持ちを自分の言葉で発言してきました。しかし、的確に伝えたつもりでも受け手は必ずしもそうではないようです。そのことを厭というほど味わってきたのではないのでしょうか。民主主義の基盤である合意形成を図ることの難しさを改めて体験した2年間でした。
- 先人の知恵、創意と努力を蓄積してきた歴史の重みのある麻生区に、新たな努力の積み上げでさらなる歴史を拓きたく、区民会議の委員は熱意と誠意と創意をもって地域課題に取り組んできたことを、この報告書からくみとっていただきたいと思っています。
- 人は誰でもよりよく生きたいと願っています。しかしながら、願いは願うだけでは実現するものではありません。願いを実現したいとする人の力が必要なのです。第1期区民会議はそうした人々の結集であったと思っています。第2期の委員にも、よりよく生きるために多様な願いを持って取り組んでいただくことを期待しています。
- 最後に、的確な助言・意見をくださった参与の皆さま、また、温かく励まし、時には厳しい指摘をされ、私たち委員を支え取りまとめていただいた区役所の事務局の皆さまに感謝とお礼の気持ちを伝えたい。

第1期 麻生区区民会議委員一同